巻頭言

発展期へ協会方針の再検討を

誇るべき短時日の普及とその成長

昭和十三年、我国にハンドボール協会が生まれ、スポーツとしてのハンドボールが、我国に根を下ろしてから、二十三年の歳月が流れた。人間に例えるなら、ようやく成長期、成人期の境地に踏みいれた頃である。

自画自讃になるが、日本のスポーツ界で、ハンドボールほど、その普及を短時日に成し遂げたものも珍しい。技術的な面でも、年々歳々驚異的な進歩を遂げて来ている。

戦後、西ドイツ（昭和三十一年秋）ルーマニア（今夏）と二度にわたる国際試合では、勝利こそ得ることは出来なかったが、世界ハンドボール界の最上位の二チームに対して、臆することなく、堂々と対抗し、その実力の高さを内外に披歴したのは周知の通りである。

時に、今夏のルーマニア戦では、国内チームはすべて単独チームが対戦し、その結果は、三年前、西ドイツと全日本選抜軍とのスコアと殆ど同程度の開きに留めた一事は、日本ハンドボール界の実力と選手層が、決して低いものではないと云う、またとない〝裏付け〟になったはずである。

ハンドボールは昭和三十九年、東京で開かれる第十八回オリンピック大会に、参加を予定されている。

近年の日本ハンドボール界の発展ぶりは主管者である日本のハンドボール界が、他国に比べて低調であってはと云う危惧をもはや絶対に起させないと云ってよいだろう。それどころか、その優勝さえも狙える実力を備えつつあることは、ハンドボール界のみにその期待は留まらないものである。

十一月初旬、日本ハンドボール協会は、明春三月、西ドイツで開かれる第四回世界男子七人制ハンドボール選手権大会への参加を決定、正式に発表した。これこそ、日本の実力を内外に問い、示す絶好の機会である。

現在、各筋から伝えられるオリンピック東京大会に於けるハンドボール競技の開催は、楽観を許さぬ情報ばかりであり、ここ数ケ月、日本ハンドボール界の全関心は、この一点に集められた感が強いが、来春の海外遠征軍にしても、国内諸チームにしても、そうした問題を切放して絶ゆまぬ努力を注いで欲しい。そうすれば自ずと道は開けよう。日本のハンドボール界は未だ二十三才である。二十三才にして早くも内外各スポーツ界と列するほどに成長、進歩を遂げた〝過去〟に誇りを持つべきであり、明日からの将来はその誇りを更に輝やかしいものにすべく努力をすべき期間であろう。その意味で、日本のハンドボール界の施政を司る日本ハンドボール協会の充実を切に望んでやまない。日本ハンドボール界発展への基盤は出来上った。日本ハンドボール協会は、この期に際して、改めて、その機構、方針を検討すべきではなかろうか。

特にその傘下におさめる地方協会、学連、高校界などに対して充分の意をつくした検討を加えるべきであり、名実ともに日本ハンドボール協会は、これら下部組織の織りなす底辺を基にしたピラミッドの頂点に立つべく、その体制を固めるべきである。そして、オリンピック参加問題を含めたハンドボール界宿願の諸事に対処すべきであろう。

──完

特集○○○ 爽秋のハンドボール界に拾う七つの話題

爽やかな秋風とともに、ハンドボール界もフイールドシーズン最後を飾る熱戦が東に、西に今日も繰り広げられているが、その活況を裏付けるように今秋ほど話題の多いシーズンも珍しい。そこで編集部では、そうした話題の中からいくつかを拾い出し、解説読物にして集めてみた。題して〝爽秋のハンドボール界に拾う七つの話題〟——

第1話 世界室内大会へ初参加

コーチ派遣日ソ交流も実現か

日本のハンドボールを海外に遠征させたい——遠征というよりも『武者修業をさせたい』というのは近年、関係者やファンが一様にえがく夢であった。そしてその夢が来春ようやく実現することになった。もちろん球界初の遠征である。

日本ハンドボール協会は十一月四日、東京お茶の水の岸体育館で緊急全国理事会を開き、来春西ドイツで開かれる第四回世界室内（男子七人制）選手権大会に代表チームを派遣することを正式に決定した。いまのところ、世界室内選手権への参加のほかに西ドイツ、フランス、スエーデン、ルーマニアなどを転戦する計画がたてられている。選手団の陣容は役員をふくめ十八人いる。出発は明春二月中旬の予定である。遠征メンバーについては、四日の会議でも具体案が出なかったし、選抜軍あるいは単独チームかも決まっていない。この問題に関しては、後日改めて協議が開かれることになっている。選考委員会が特に設けられて、この雑誌が発行されるころには、なんらかの発表が行なわれていよう。

ところで参加が予定されている第四回世界室内（男子七人制）選手権大会は、明春三月一日から西ドイツのドルトムント市を中心にしたベルリン、キール、シュツガルト、フライボルク、ハノヴァー、クレベルド、エッセン、フランクフルト、カールスルー、ワイズバーデン、ハーシュロックなど十二都市で決勝戦は三月十二日、ドルトムント市で行なわれる予定。主催は国際ハンドボール連盟、主管は西ドイツハンドボール協会。現在までに参加を表明している国は日本、東独、西独、ブラジル、デンマーク、ハンガリー、ノルウエー、アイスランド、ルクセンブルグ、オランダ、チェコ、ポーランド、ルーマニア、ユーゴ、スエーデン、スイス、ソ連などの二十ケ国。このうちスエーデン（一九五八年度優勝）ドイツ（開催国）および遠隔地のブラジル、日本、アイスランドの四ケ国は予選に出場しなくてもいいことになっている。そのほかの十七国協会は地理的基準にしたがって三チームづつの三グループと二チームづつの四グループに分けられる。

（北部）ノルウエー、デンマーク、フインランド
（西部1組）スペイン、ポルトガル、フランス
（西部2組）ベルギー、ルクセンブルグ、オランダ
（中部1組）オーストリア、スイス
（中部2組）ユーゴ、ハンガリー
（東部1組）ポーランド、チェコ
（東部2組）ルーマニア、ソ連

となっている。各グループは二回戦を行ない第一位のチームが西ドイツの世界選手権第一次リーグ戦へ出場する。すでに日本はA、B、C、Dと四グループのうちCグループに出場する事が決まっている。このグループには東部1組の勝者、東部2組の勝者と対戦する。第1次リーグ戦で各グループの一位と二位の八チームが第二次リーグ戦に出場する。

第2話 七人制への関心高まる

統一実現すれば大きな影響

九月二十三、四日ベルギーで行なわれた国際ハンドボール連盟（IHF）今年度の総会＝日本欠席＝席上、世界のハンドボール界にとって革命的な提案が北ヨーロッパの一部諸国から提出された。

『一九六一年を期して、ハンドボールは十一人制を一切徹廃し、七人制に統一すべきである』と云う意見がそれである。（注　この場合、七人制とは室内のみを指すのではなく、屋外、屋内共通、併用を意味する。）

同総会の公報が入手しておらず詳細は不明だが、この提案は、一

説には東西ドイツ他、数カ国を除いてはほとんどが支持の意向を示していたと伝えられ、特に北欧諸国は強硬であったようだ。フランスのスポーツ紙「レ・キップ」も大々的にこの問題をとり上げている。

最近のヨーロッパハンドボール界は、どちらかと云えばフイールド（十一人制）よりもインドア（七人制）に熱を入れており、一般の関心も七人制の方が高いようである。これは、記者の憶測だが、ヨーロッパでは、今、フイールドスポーツとしては、サッカーが全盛を極めており、このために、ヨーロッパ各国のハンドボール関係者が、ハンドボール今後の大発展は十一人制よりもむしろ七人制に、つまり主としてインドア・スポーツとしての方があると云うことに結論したのではないかと思われる。

我が国でも、昭和三十二年頃、早、慶、明あたりが、盛んに室内シーズンの再検討を唱え、室内（七人制）の普及と発展対策を慎重に考慮せよと云っていた時代があり、これは、具体化するまでに至らなかったものの、今でも一部には七人制を主、十一人制を従とする考えを強力に推し出そうとしている動きがある。いずれにしても、仮に七人制統一に決定されれば、非常に大きな問題として、日本のハンドボール界に与える影響も大きい。しかし、世界ハンドボール界の盟主として自他共に許す東西ドイツ両国が、果して、五十年に亘る伝統を持つ十一人制ハンドボールを、簡単に自ら見切りをつけるかを思えば、コトは安直に解決すると思えない。先般来日したルーマニアの役員もこうした動きがヨーロッパ各国にあることは少しも話していなかったし、今回の総会でも結論は出さずに終ったらしい。

しかし、一九六四年のオリンピック東京大会では是非七人制をと云う声が強く、これは、相当具体的な線が出されたようである。

世界のハンドボール界が七人制に対していかに熱心かを知る一つの證左として来年三月一日からドイツ（場所未定）で行われる世界七人制ハンドボール男子選手権大会へエントリーを予想される国が、過去のどのような国際ハンドボール大会の参加国数も及ばない十八ケ国と云う数字であることでも判断出来る。日本も事情が許せばこの大会に参加したいと云うが、現在までに参加を意思表示していると云われる十八ケ国はドイツ（東西）ブラジル、デンマーク、スペイン、フインランド、フランス、ハンガリー、アイスランド、ルクセンブルグ、ノルウエー、オランダ、ポーランド、スエーデン、スイス、チェコスロバキアソビエト、ユーゴスラビア、ルーマニア等である。

国際連盟が、七人制を強く主張する裏には、オリンピック東京大会に出来るだけ多くの国が出場を申込み、危い橋を渡っているその採否問題に対する一つの援護政策にしようと云う動きと見てよいものもないではないが、ともあれ、世界ハンドボール界にとって、七人制が主、十一人制が従であると云う日が来るのは、意外に近い将来のことのようで、おそらくそうなれば、記者の予測では十一人制はヨーロッパ式あるいはドイツ式として残され国際式ハンドボールと云えば七人制を指すことになるだろう。（杉山茂）

第3話

花開く実業団 ハンドボール

広島で初の全日本大会

多年の懸案であった実業団選手権がようやく実現の運びとなり、明るい話題を投げている。

日本のハンドボール界は、戦前は学生界がその中心となって発展し、戦後は高校スポーツ、中学体育としても成長を遂げて来たが、一般における普及は、他のスポーツに比べると、かなり立遅れており、永い間、日本のハンドボール界の今後の発展は、社会人分野への侵透如何にかかっていると云われていた。

そのためには、学生リーグ戦や、全国的な諸大会をPRして一般ファンを誘致することと、実業団スポーツとしてハンドボールが採りあげられることの二つが最良の策と云われ、殊に、後者は、プレイヤーとファンの両者を一挙に獲得するものとして協会を中心に積極的な活動が続けられていたが、まず、昭和三十二年女子界に愛知紡績K

「ハンドボール」（季刊）

第四号目次

表紙写真は国体準決勝桜丘会対大崎電気の試合から―大崎、竹野のシュートを桜丘会、堀が強引な反則で阻む

Kがデビュー。同時に全日本を制覇すると云う強チームを編成し、男子界に一歩を先んじた。
　一方の男子界は、第十二回国体に広島代表として三菱レーヨンが日本の男子実業団ハンドボールチームとして初めて中央の大会に出場。このチームと前後して住友化学菊本（愛媛）が全日本選手権や国体に登場し、以後、関西、中国地方に実業団チーム誕生の報が相次いだ。しかし、女子の愛知紡績が、全日本綜合に三連覇するなど常に大学チームやクラブチームの一段上に立つ強味を発揮していたのにひきかえ、男子チームは、全国的にはBクラスチームばかりで精彩を欠いていた。しかし、昨年春、協会が、実業団選手権の開催に本腰を入れ始めると同時に、東日本にも名古屋に新三菱重工、東京に大崎電気などのチームが生まれ、殊に大崎電気は、昨年四冠王を得た芝浦工大のメンバーを大量入社させ、一挙に全国屈指の強チームを編成することに成功、また新三菱重工も、同じ名古屋に生れた東洋レーヨン名古屋と去る九月、中部日本実業団選手権（七人制）を賭けて一戦するなど、活発な動きを見せるようになった。
　このため、協会では「全日本実業団選手権開催の機熟せり」として去る十二月三、四日広島県下で初の大会（十一人制）が開催された。日本のハンドボール界の既成勢力である、学生界、高校界が長い年月を費して、現在のような姿にまで成長した陰には筆舌につくせぬ労苦があり、ようやく軌道にのったとは云うものの実業団界の今後は、決して楽観を許せぬものであり、関係者の努力と、既ハンドボール界の協力がなければ、順調な成長は望めない。
　実業団ハンドボールの命運は来年一カ年間の活動が総てを決しそうで、その意味で、新三菱重工が地元の高校有力選手の入社を積極的に働きかけていると云うニュースや、東京、大阪、広島などに、東西大学のOBを中心にして二、三のチームの結成が取沙汰されているなどは、斯界にとって心強い限りであろう。実業団ハンドボールの発展を望むや切である（黒尾武）

大崎電気に初栄冠

　記念すべき第一回全日本実業団ハンドボール選手権大会は地元開催地の広島勢五チームを含む男子八チームが参加して三、四両日広島国泰寺高グラウンドで行なわれ、男子は大崎電気が初優勝、女子は愛知紡績一チームのみしかエントリーがなかったといわれ、試合は行なわれなかった。来春攻めて大会を開催するか、愛知紡績の不戦優勝を認めるかどうかは未決定である。

▽男子予選リーグ　大崎電気（東京）16―1呉造船（広島）大崎電気20―2淀川製鋼（広島）淀川製鋼9―4呉造船　三菱レイヨン（広島）18―4戸田工業（広島）三菱レイヨン10―8東洋工業（広島）東洋工業16―4戸田工業

▽決勝リーグ　大崎電気10―2東洋工業　大崎電気9―8三菱レイヨン　三菱レイヨン12―8淀川製鋼　東洋工業6―5淀川製鋼　三菱レイヨン10―5東洋工業　大崎電気16―1淀川製鋼

▽同順位①大崎電気②三菱レイヨン③東洋工業④淀川製鋼

なお自衛隊久留米幹候隊（福岡）本田技研（三重）両チームは棄権

第4話
消えた関東一部六校制
〝理想〟と〝現実〟の食い違い？

　関東学連は、今秋のリーグ戦前、来シーズンから加盟校増加（千葉工大）に伴う三部制新設を決めて、公式に発表したが、秋のシーズンを終ってみたら、何時の間にか、その約定が消えて、来シーズンも現行維持になってしまったらしい。
　参加校が現在の十六校から十七校以上になったら六・六・五の三部制にしようと云う話は一、二年前からあり、計らずも、来シーズンから千葉工大の加盟が内定されたために今秋のリーグ戦の結果、一部の下位二校を二部に転籍し、二部の下位四校を三部（新設）にすることを、学連の会議で申し合せ、一度確認を得たものであった。それが何故、立消えになったのか。考えてみれば不思議な話だがそこには学生界の現状の一端がうかがえる〝問題〟がいくつか潜んでいるようである。
　その第一は、三部にしたら、三部校がリーグ戦から遠のいてしまう、つまり辞めてしまはないかと云う危惧である。三部になったからやめると云うのは、ふとどきな話のように聞こえるが、実は三部ではやって行く気がしなくなるのではと云う処に遠因がある。つまり関東学連は三部まで作っても三部を運営していけないのではと云うことだ。例えば球場の問題だ。駒沢は今でさえ一杯である。この上、三部が出来たら、とても三部は駒沢では日程を組めないだろう。となると加盟校のグラウンドを持廻る他はない。自然、組織的な運営が難しくなり、天候不順などの場合連絡が円滑にゆかず、不戦で勝負が決まるケースが多くなろう。
　第二には審判の問題だ。グラウンド同よう、現状で審判は手一杯。仮に三部が出来て三部だけ他会場となったら三部に審判を派遣することが難しい。そうなれば、当然、学生審判が担当したり、一人の審判がかけ持ちする結果となり、公式戦としての権威がうすくなる。以上の二つがもし現実になったらたしかに三部校の意欲はうすらごう。関東学連にとって、今、一つでも加盟校が脱けることは痛いし、大げさに云えば〝損失〟である。
　第三に、三部制にしたら、全般のレベルが何時まで経っても上らず、一部ばかり技術が先行してしまうだろうと云うことだ。学生スポーツの対抗戦に技術の優劣で階層をつけると云うのはあまりよいことではない。可能ならば十六校であろうと、何校であろうと〝総当り〟にすべきである。しかし、実際にはそうはいかない。せめて、許される範囲で一つのチームが多く試合を組める方法を採るべきで八校制はたしかに、そうした理論からすれば六校制よりも優先

されるべき形態である。そうした意見がシーズン中に支配的になり、シーズン前の申し合せがホゴにされてしまったようだ。しかし、第一、第二の問題にしても、総試合は三部にした方が現行の一二部八校全五十六試合と云う数より下廻るのであり、学連が、特に各校のOB連中がもう少し学連育成を心がけてくれるなら解決出来る問題だし、第三の問題については、一部六校制こそレベル向上の道であり、内容充実の最善の策であるとし、現行八校制における一部下位校の無気力を遺憾とする考えもあり、必ずしも、現実的には八校制が全般のレベル向上に役立ってはいず、むしろ面子(メンツ)のみに頼る悪弊ありと云う意見も強い。八校制か六校制か。学連としてはアタマの痛い問題だが、関東学連が一度申し合わせをして、公式発表までしたものをシーズン中に自ら変えたことだけは釈然としない。問題の核心に触れた再検討の結果、現行維持に変えたなら仕方ないが〃作用〃は、別のところにあったのではないだろうか。

第5話

五輪専任コーチに荒川氏

〃東京大会参加決定が先決〃

五輪専任コーチとなった荒川氏

東京オリンピック選手強化対策本部の決定に基いて、強化対策専門コーチの人選を急いでいたハンドボール界では、十月二十五日、熊本県水俣市で開かれた全国評議員会の席上、協会常務理事荒川清美(あらかわきよみ)氏を推すことに決定した。

荒川氏は、福島県出身、三十九才。戦前の日体大時代、主にHBとして活躍。好守をうたわれ、戦後は母校の監督として、その現役時代の経験と豊富な知識によって手腕をふるい、多くの名選手を生み出した。日体大がハンドボール界の盟主として理論的にも、技術的にもゆるがぬ座を築いているのは、一つには荒川氏の秀れたコーチ・ワークによって育まれた日体大OBによるところが大きく、特に体育生理学的な立場から展開するハンドボール技術論は氏の独壇場で、大いにその手腕が期待される。余談だが、ローマオリンピック日本体操選手団の女子チームリーダー荒川みゆきさんは清美氏夫人である。

荒川氏は、コーチ推せん後、その抱負を「オリンピック種目に決定することが先決問題だが、ともかく一生懸命やるつもりだ。具体的な強化構想をすでに用意しているが、概略的に云うと、東京大会までの四年間を二期に分け、第一期を強化準備期間、第二期を本格的強化鍛練期間としたい。それぞれ二年づつの予定だ。細部的には各都道府県の組織を強化して、地方大会の増加とともに優秀選手を発掘し、地方講習会も積極的にやりたい。強化の骨子となる基本方針はトレーニング方法の改良と基礎体力の充実の二点で、充分検討して、最善と思われるモノを考えたい。スポーツ医学、生理学的な面からも役立つものはどしどし用いる心算だが、これには、アシスタントがどうしても必要になってくるだろう。ともあれ、全国諸賢の理解と協力とそれに〃時間〃がなければ成せない大事であるので、これからも、調査と研究を怠らず来春までには具体的な構想を発表したい」と語った。(S)

〔註〕荒川氏は東京オリンピック強化対策本部から十二月五日付で正式承認された。

海外ハンドボール通信

▼国際ハンドボール連盟(IHF)では、九月二十三、四日の両日ベルギーで今年度の総会を開き、主にオリンピック東京大会について協議を行なった。その結果、二十ケ国がオリンピックへの参加を意思表示した。(注・日本は書簡をもって参加を表示しており実際は二十一ケ国となる)参加表明国は次の通り。

ドイツ、オランダ、オーストリア、ポーランド、ルーマニア、ソビエト、スェーデン、スイス、デンマーク、スペイン、エジプト、韓国、チェコ、ブラジル、フィンランド、フランス、エール、ユーゴ、ノルウェー、ハンガリー　日本

▼IHF会長ハンス・バーマン氏(スイス)はアルバート・ワグナー理事長との連名で、総会において表明のあったオリンピック東京大会への参加表示国を主催国日本に通達、同時に、日本側の受け入れ準備についても打診した。(編集部注・日本ハンドボール協会では、この書簡を十月十九日受信すると共に、IHFに対して「十六チーム以内の参加を認める」と回答することになった。これはボールゲームの常識として十六チームと云うことになったもので、参加国がこの数をこえる場合は当然なんらかの形で予選が行われるだろう)

▼昨年秋、中共を訪問した東ドイツ選抜軍は今秋、二度目の中共遠征を行い、目下、各地を転戦中である。昨年は10戦全勝の成績をあげた東独も、今度は、中共のレベルが上っており楽勝が続くとは思われない。しかし、第一戦の北京陸軍選抜との試合は14対5で東独が勝った。中共は今年になってソビエト、ルーマニアに次ぐ三度目の国際試合である。

第6話

四冠王目指す愛知紡績

見逃せない会社側の理解

愛知紡績が国体（一般女子）に優勝した。八月秋田の全日本に続く、今シーズン二つ目の全国タイトルである。明春の全日本実業団と室内選手権に勝って、女子界始まって以来の全国四冠王となるか、男子に比べて、精彩を欠くと云われる女子界にとって愛知紡績の強さを巡る話題はたしかに一際光彩を放つものであろう。

愛知紡績は昭和三十二年、部を創設した。愛知紡績の所属する愛知県はもともと日本のハンドボール王国。しかしそれにしても愛知紡のデビューは鮮やかだった。

結成一年にして愛知紡績が全国優勝を遂げ得たのは、その前年、つまり第八回全日本総合選手権で半田高（愛知）が優勝したのと大きな関連がある。

すなわち、その第八回大会の半田の優勝メンバーの大半がそのまま愛知紡績に入社したからである。今春、男子で大崎電気（東京）が四冠王の芝浦工大の新卒業生を中心にデビューして一躍全国のA級チームとなったのは当時の愛知紡績のケースとよく似ているわけだ。

さて、結成当時の愛知紡績のメンバーは半田高で優勝主将となった則武のぶ子選手がそのまま愛知紡主将となり、以下瀬川、滝本、桑山、黒野、と云った半田高優勝の原動力が愛知紡績に入社したわけである。

愛知紡績がハンドボールを始めた動機については、「社長が以前からスポーツを愛好し、スポーツマンシップによって職場の空気を明るくすると共に、職場の士気を少しでも揚げようと云う考えを持っていたからで、会社のPRと云うことは第二義的なものであった。また、社長と半田市長、半田高校長が親交のあったのも一つの動機である」（現愛知紡績責任者外山正夫氏の話）と云うことになる。

こうした動機で創立しただけにチームに対する会社側の理解も大きく、大会の前は、午後三時には仕事を終えて毎日日没まで林藤吉氏をチーフコーチとして猛練習を行っており、毎年五月のシーズン始めには、定期的に茨城を中心にした北関東遠征を行って、そのシーズンの力試しをしているほどだ。しかも、毎年新人の補強も怠らず、昭和三十三年春には現主将のFW沢田、昭和三十四年春には現メンバーの主力たるGK野崎、B山崎、FW礎部、青木らがいずれも半田高から入社、今春は水海道二高（茨城）から宮本、塚原の両バックスと那賀高（和歌山）からGK藪内を加えており、王座の堅持に万全を期している。こうした努力が続く限り愛知紡績の全日本制覇は、対抗馬の少ない日本の女子ハンドボール界ではおそらく、これから先数年間は続くだろう。し、それだけに、斯界初の〝四冠王〟と云う最高栄誉を独占する偉業を目前にした今年は宿願の全日本室内タイトル目ざして、例年以上に会社も、チームも熱を入れている。

愛知紡績の強さを評して、高島協会理事長は「セット・プレーの上手さが第一だ」と云い、荒川清美氏は「秀れた脚力が総てである。母体となっている半田高が、もともとセットプレーを得意としたチームで、そこの連中が愛知紡に入ってそのプレーを円熟させるのも見逃せない」と云う。またチームの初代主将だった則武のぶ子さんは「全員の得点力が平均していることが他チームより秀れている点だ」とその得点力の強さを強調する。そう云えば先日の東海選手権でも白梅クラブ（岐阜）を相手に38点と云う記録的なスコアをあげているし、創立以来、公式的な大会での敗戦は四回（大阪寝屋川クラブに二敗、半田高熊本クラブに各一敗）と云う記録も肯ける。

こうして、何もかも順風満帆なこのチームにも不満がある。それは、日本に女子の実業団チームが少ないと云うことだ。強いては、それが何時までも女子ハンドボール界を陽の当らぬ場所においておく原因だと云う。その通りである。女王の座を守りぬく愛知紡績の実力は偉とするものであるが、しかし斯界の発展は愛知紡績の独走が続いている間は望めない。愛知紡績の堅城をゆるがす強者の出現こそ待望されるものであろう。そして対抗馬の登場を自ら口にする愛知紡績の自信と誇りは、今や立派にチーム創立の意義を叶えたと云ってよい。

全国四大タイトルの独占を目指す愛知紡績は恵れた環境におかれ会社では、資材、原料、庶務などの仕事を持ち、社会人としての成長も遂げており、ともすれば、会社のPRを第一義とするような日本の実業団スポーツ界にあって、理想的なコースを歩んでいる。今後の健斗を祈ってやまない。

第7話

芝浦工大47連勝なる

王座戦で関学がストップ

芝浦工大は十一月十二日名古屋で開かれた第四回全日本学生王座決定戦東日本予選で東北学院大を24―5、地元の中京大を24―9で連破し公式戦に47連勝を記録した。しかし二十三日（西宮）の王座決定でついに関学に12―11で屈し50連勝への夢は消えた。芝浦工大47連勝の後を振返ってみよう。

芝工大は昨年七月のインターカレッジで同志社大を破ってから全日本総合二回、全日本学生二回、全日本学生王座二回、全日本室内一回、関東学生リーグ三連勝とむかうところ敵なし。文字通り天下無敵の快進撃を続けてきた。

（芝浦工大が連勝記録を伸ばすごとにいつも同志社大が引き合いに出されるのは全くもって気の毒だが……）

▽……ことしの芝浦工大は昨年のチームと比べてみると必ずしもよくなったとはいえない。宮原（俊）宮原（藤）黒沢などスター・プレーヤが抜け、スケールも小さくなっていた。だからシーズン前の予想では芝浦がこんなにやるとは思っていなかった。関東学生リーグでも明大、中大に大きな期待をかけたのだが、この二チームが鳴かず飛ばずの態。これが芝浦の連勝を伸ばすひとつの因となった。もうひとつの因は選手自身のファイトである。練習につぐ練習、先輩が残したこの記録を少しでも伸ばそうとする気持があったし、先輩に負けたくないというものすごい意欲がみのったのである。だからわたしは他力本願とはいわず、自力で勝ちとったといいたい。

▽……芝浦工大にも苦しいゲームがあった。春のリーグ戦で慶大に7―6でやっと勝った。少なくともハンドボールを知るものにとっては、意外だったし、17―6の誤まりではないかと思ったに違いない、それほど苦しいゲームだった。日体大には13―10でやっと勝っている。七月のインカレでも準々決勝でまたも日体大に苦戦し15―14と1点差、準決勝の関学戦でも11―9、八月の全日本総合（大曲市）の決勝では先輩の多い大崎電気と対戦し後半わずか1点しかとれず8―8で延長戦となる始末だった。延長戦で佐藤の大活躍でとにかく優勝できたわけだ。此のリーグ戦にはルーマニア戦で身につけたこまかいワザで楽勝の連続だった。

▽……苦戦したあとの勝利というものは実に味わいのあるもの。芝浦は練習量の多いこと、チームワークのよさ。これが芝浦のお家芸である。チームワークのいいというのは三浦部長、高島監督、中沢コーチの三人のカゲの力も見のがせない。芝浦をあまりほめると他の大学はやきもちを焼くかもしれない。しかしそれは芝浦があまりにも強いから仕方がなかろう。〃芝浦の天下〃といわせておく方がむしろ不甲斐ないのではないか。早大、慶大、明大、日体大あたりの名門がもっと奮起しなければならない。とくに早慶両チームにいいたい。その慶大が二部に転落したのだから話にならない。アマチュア・スポーツは早大、慶大が強くならない限り、そのスポーツの伸張はあり得ない。芝浦は関学の斗志に一敗地にまみれたが芝浦時代が去ったわけではない。

実業団結成がくや談義

～三十息子から十六坊主まで～

岡田一郎

日本にもようやく実業団ハンドボールが芽生えて来た。しかし、実業団球界は歴史のある学生界、実績のある高校界に比べたら、総ての面で苦しい立場におかれている。そのチーム造りさえも容易ではない。そこで実業団チームの実情と将来の道を新三菱重工（名古屋）監督、岡田一郎氏（慶大OB）に特別寄稿願った

× ×

毎号本誌にその目ざましいスパイクの跡を印して行く大崎電気チーム……私は同じ実業団の一員としてその惑星の如きデビューをお慶び申上げ亦その快調の進撃に惜しみない拍手をお送りする。

と同時に同じ実業団球界の一員として、壮々たるメンバーによる大崎電気のようなチームが一朝一夕では生れないしまして地方在往の一OBではとても出来ない。

しかし実業団チーム結成の志は止まる事を知らず私は先づサッカー部を作る事が第一歩となった。四年前の事である。（サッカーの方が競技人口も多く第三者の理解も早いのを利用した様な事になったのは少々残念ではあるが……）

サッカー部が出来るとようやくゴールポストとゴールネットが体育施設の一部となる。このゴールをハンドボールに流用すればよい。

ボーナスでボールを買い一人でシュートを続けながら同好の士をつのった所、大学OB2名、高校OB1名が名のりを上げ小生を含めて四人の経験者が集った。あとは部員を集めれば良い……。

幸い当社には技能養成工制度があり中学卒業生が年々入社する。三年間工業高校程度の教育を施すが中には体育もある。そこで教育担当者にハンドボールが如何に体育教科として適切であるかを売込む事にした。曰く

ハンドボールは
バスケットより多勢が競技出来
バレーより勇壮で男性的で
サッカーより上達が早く
ラグビーより事故は少なく
しかもサッカーのゴールを利用出来るから施設費はただである。云々……（ああ他の競技団体の方よ許されよ!!）必死の宣伝は成功し遂にハンドボールは体育の課目に採用され、中卒の部員も集った。だから当社チームは十六才の丸刈坊やから卅息子までのバラエティーに富んだ編成である。一口に云えば之だけだが、結成までの四年間は実に長かった。

しかし卒業して、OBとなられた皆様が、自己の職場で一寸集めてチームを作ることは熱意次第で必ず出来よう。

しかも七人制ハンドボールは比較的人間も集りやすく、コートもせまくて出来る利点もあり、吾々実業団としてはむしろ七人制に重点を置く方が充実も早いのではなかろうか。

バスケットには華麗なパスワークによって表わされる動の面とゴールインのボールがネットをくぐる瞬間の静の面がある。美しいが、この静の面は力量感に乏しい。しかし七人制ハンドボールは云うなれば動的面の連続であって、このスピード感こそは時代感覚にマッチしたものだと云っては我田引水だろうか

駒沢に、西宮に、汗と泥にまみれて戦った各校OBが職場でチームを結成して一堂に会する時こそ、実業団ハンドボールは美しく結実するだろう。戦い終って旧友と杯をあげる楽しみを夢みて、職場チームを作ろう…

愛知県

桜丘会・愛知紡 中京商・半田高 完全優勝の偉業

第15回国体ハンドボール競技終る

優勝チーム左から中京商の近藤、桜丘会の浅野、愛知紡績の沢田、半田高の磯部各主将

第十五回国民体育大会は十月二十三日から熊本県下で行なわれ、ハンドボール競技は一般男女、高校男女の合計五十七チームを集めて水俣市浜公園グラウンド他で行なわれた。高松宮妃殿下の御来場や地元の熱のある声援でかってない盛会となったが競技面でも愛知県が四部門に優勝と云う快記録を作り、話題を呼んだ。

高校男子

▽高校の部男子一回戦

徳山高（山口）	14—4	水戸工（茨城）
明石高（兵庫）	14—1	山形東高（山形）
安積高（福島）	9—8	大宮高（埼玉）
盛岡一高（岩手）	12—11	富岡高（群馬）
塩山高（山梨）	18—8	北佐久農（長野）
盈進商（広島）	14—10	岐山高（岐阜）
神代高（東京）	13—10	函館中部高（道）
和歌山商（和歌山）	16—11	甲南高（鹿児島）
伏見高（京都）	16—15	氷見高（富山）
坂出工（香川）	14—5	湯沢高（秋田）

▽同二回戦

清水市商（静岡）	15—3	徳山高
明石高	13—6	新居浜工（愛媛）
盈進商	8—5	鎌倉学園（神奈川）
熊本市商（熊本）	15—5	塩山高
盛岡一高	9—8	寝屋川高（大阪）
中京商（愛知）	11—5	神代高
伏見高	17—6	安積高
和歌山商	7—2	坂出工

【一、二回戦から】八月の全日本高校で活躍した小松実業（石川）や桜台（愛知）は姿を見せなかったがこの大会には新たに盈進、鹿児島甲南、水戸工、徳山、富岡高、山形東高らが加わり、夏の大会に劣らず一回戦から好試合が多く、二回戦で早くも前回優勝の鎌倉学園が敗れる波乱があったほか夏の大会の三位だった大阪の名門寝屋川が盛岡一高に降った。盛岡の健斗は、最近の東北、特に岩手球界の躍進を示すものであろう。全国的な大会に初登場の山形東高は攻守に未だしだったが、今後の奮起を待ちたい。（鷲尾）

▽同準々決勝

明石高 12—5 熊本市高

速攻を得意とする明石高は終始早いテンポのパスワークで熊本のバックスをかく乱。熊本も後半CF清原のシュートが決まり出して反撃に出たが、明石もCF前田の巧技で加点、制勝した。（藤田）

清水市商 7—5 盛岡一高

好調盛岡は強者清水によく食い下ったが、LW増田以外得点力が乏しく、前半、山田、吉田のコンビで得点し優位に立った清水が辛うじて逃げ込んだ。清水はシャープなプレイが少なくよい出来ではなかった。（杉山）

高校男子優勝の中京商チーム

中京商 16—9 伏見高

攻守に洗錬された中京商順当の勝利。しかも常に大量リードを続けながら六人防禦を守っていたのは偉い。きびきびした誠実味のあるプレーは日頃の技心両面のたんれんのしからしむところで高校生らしいマナーも賞されよう。一方の伏見は、バックスのプレーが荒く自ら危機を招き、攻めても単調な五人攻撃を繰り返していかんともしがたかった。（井上）

盈進商 10—7 和歌山商

両チームに技術の差は認められなかった。気力が勝敗を色分ける結果となったが、敗れた和歌山商も後半6対6と同点したあたりでもう一息の気力が欲しかった。盈進は前半LI諏沢、後半RI正木とインナーがよく働きFWのまとまりは秀れていたが、バックスのプレーはもう少しフェアーであるべきだろう。（今村）

▽同準決勝

明石高 9（4—4 / 5—4）8 清水市商

【明石】		【清水】
西村	GK	渡辺
宮北	FB	斎藤
藤井	FB	服部
桜井	HB	風間
数田	HB	向島
人部	HB	宮城
佐藤	FW	榊原章
森末	FW	石川
前田	FW	山田
栗山	FW	榊原康
杉本	FW	吉川
31	ST	30
48	反則	25

両チームともダブルヘッターのためか疲れが見えたが、そうなると技術よりも体力の試合。明石はLW杉本のシュート力が冴え、パスワークによってチャンスをつかみ、シュートの三分の二を杉本に射たせる策が成功、杉本も期待に応えて七点を叩き出し勝利を得た。一方の清水もLW吉川が同じようによく働いたが、個人プレーに頼りすぎていたようで、やはり、あくまでパスプレーで勝負に出るべきであった。（山田）

主要試合戦評担当

山田計、松本重雄、藤田信義、狩野幸介、井上元二、今村孝二（以上大会審判員）鷲尾武治（共同通信社）、杉山茂（NHK）＝敬称略、順不同

中京商 15（9—4 / 6—3）7 盈進商

【盈進】		【中京】
金田	GK	奥本
村井	FB	葛島
佐藤	FB	吉田
杉之原	HB	石田
石岡	HB	都築
野田	HB	石川
近藤	FW	金田
正木	FW	坂野
岡	FW	森田
諏沢	FW	深谷
高松	FW	近藤
	ST	
	反則	

実力は中京商が総てに一枚上、順当な結着を見たが、試合途中しばしばエキサイトして主審から注意を受けていた両チームのマナーは感心出来ない。若い張切ったプレーと乱暴は自ずと区別されるべきもので、後者の場合は敢然退場を命じてもよいのではないか。準決勝にしてはその点、いただきかねる内容だったのは惜しまれる。（杉山）

▽高校男子三位決定戦

盈進商 11（7—7 / 4—2）9 清水市商

得	S	【清水】		【盈進商】	S	得
0	0	渡辺	GK	金田	0	0
1	1	斎藤	FB	村井	0	0
0	0	服部	FB	佐藤	0	0
0	0	風間	HB	野田	0	0
0	0	向島	HB	石岡	0	0
0	0	宮城島	HB	杉野原	0	0
1	7	榊原章	FW	近藤	1	1
1	4	石川	FW	酒井	0	0
2	5	山田	FW	岡	2	0
1	4	榊原(康)	FW	諏沢	6	3
3	11	吉田	FW	高松	4	2
			FW	(佐々木)	0	0
			FW	(正木)	12	5
9	32	32	反則	28	25	11
		0	14メートルスロー	2		

（評）

盈進は前半正木の14メートル・スローの失敗から清水の反撃にあって苦戦した。だが後半正木を中心としてじっくり攻めた。三本の14メートル・スローのうち二本を決め、さらに高松が左サイドからジャンプ・シュートして清水を押えた。清水は速攻一本ヤリで攻め抜いたが肝心のゴール前でスピードが止まり凡ミスを重ねた。また強風を利用するロング・シュートを使わなかったのが敗因だった。

（共同通信社　松見満夫）

▽高校男子決勝

中京商 12（5—2 / 7—3）5 明石

得	S	【中京】		【明石】	S	得
0	0	奥本		西村	0	0
0	0	葛島	FB	宮北	1	0
0	0	吉田	FB	藤井	0	0
0	0	石田	HB	桜井(昇)	0	0
0	0	都築	HB	藪田	0	0
0	0	石川	HB	卜部	0	0
2	6	金田	FW	佐藤	0	0
0	0	坂野	FW	森末	6	1
6	13	森谷	FW	前田	16	3
1	4	深谷	FW	栗山	5	1
2	11	近藤	FW	杉本	0	0
1	2	(柴田)	FW	(桜井新)	0	0
0	0	(杉本)	FW	(宮島)	0	0
12	36	38	反則	35	28	5
		1	14メートルスロー	1		

（評）

中京の持つスピード、技倆は抜群だった。とくにFWの突進力はすばらしく、ちょうど芝浦工大FWを小さくしたようなものであった。ゴール前の低い三角パスで相手のバックスを前におびきよせてかく乱するあたりは大したもの。

点差こそあったが前半明石の善戦は賞していい。CF前田にボールを集めて打たせたのはよかった。両ウイングの佐藤、杉本をもう少し使ってサイドを攻めていたらもっと接戦したことと思う。

とにかくインターハイで優勝した中京商の総合戦力はすごい。関東関西の学連でもこの中京商に負けるチームが恐らくあると思う。

国体スケッチ

◎十年選手　村田 中出　両氏表彰

国体ハンドボール開始式で十年選手が式場会長から表彰された。大阪クラブの村田弘選手（36歳）中出盛雄選手（36歳）の二人。

▽村田選手　日体大出身。現役時代からCFとして活躍、大阪の豊中高—堺高を経て現在三国ケ丘高校の先生。大阪府ハンドボール協会の理事として球界のために努力している。第一回大会から連続十五回出場。

▽中出選手　日体大出身。現役時代から名FBとして有名。大阪寝屋川高校に勤務するかたわら同校の監督として女子ハンドボール界の名門をきづきあげた村田選手と同じ球歴を持ち大阪府ハンドボール協会の理事。

一般男子

写真一般男子優勝の桜丘会チーム

▽一般の部男子一回戦

全仙台(宮城) 12―10 富山クラブ(富山)

全く互角の力の両軍は数度タイスコアとなる熱戦。しかし、後半45分から全仙台はよく頑張って2点を連取、振り切った。両軍ともあまりにも個人技にたよりすぎたことは今後の練習で是非解決すべき課題だろう。富山クはバックスに無用のファールが多かった（井上）

住友化学菊本(愛媛) 15―15 全岡山(岡山)

延長を行うも勝負つかず抽せんで住化菊本の幸運勝ち。

▽同二回戦

大阪クラブ(大阪) 23―8 全仙台

熊本クラブ(熊本) 13―11 函館サンダー(道)

北対南の戦力は五分。函館はベテラン皆川がマークされ動きを封じられたためにFWの廻転が鈍りこの策戦は巧者を揃えた熊本らしかった。後半戦における熊本のFWはしばしば両サイドからのシュートが成功して点差を開いたが、面白味に欠けた試合で、特にボールを対象としない動作が両軍バックスに共通して目立った。前回二位の函館は予想を裏切っての早期敗退である。（山田）

大崎電気(東京) 22―11 住友化学菊本

【住化】		【大崎】
宮崎	GK	今野
田窒	FB	高森
上田		高橋
島田	HB	村上
菊本		黒沢
高橋		高井
夏井	FW	宮原俊
北山		中山
伊藤		宮原藤
中野		井上
松井		竹野
39	ST	37
22	反則	26

全国的な大会で実業団同士が顔を合わせたのは日本ではこの試合が始めて。記念すべき一戦であった。しかし内容的には一方的に大崎電気がおしまくり、竹野の7点、宮原（俊）井上の各4点など住化バックスを蹂りんした。住化はCF伊藤がよく一人6点をあげたがウイングが精彩を欠き攻守にスケールの差を暴露した。両軍併せて33反則と云うのは近頃珍しく少い数でここらあたりにも、実業団同士の特長が見られた。（杉山）

▽一般男子準決勝

桜丘会(愛知) 14（7―5、7―4）9 福岡クラブ(福岡)

桜丘会(愛知) 23（9―5、7―11、2―1、5―3）20 大崎電気(東京)

（評）

事実上の優勝戦、延長のすえ桜丘会が勝った。だが勝ったというよりも勝たせてもらったといった方がいい。それは大崎電気の宮原（俊）が前日の住友化学菊本戦から右足のスジを痛めて欠場したからだ。もし宮原（俊）が出場していたら完全に大崎電気の勝利だった。それでも大崎は竹野、宮原（藤）井上、中山とこの四人が予想以上に走り回り桜丘会FWと対等に試合をした。前半は高村ひとりにかき回されシュート9、得点5は大崎にとって痛手だった。大崎にボールが回ると高村は急いでバックスにはいりデフェンスを固める桜丘会の作戦はみごと。浅野のフェント、高村のシュートはさすがの大崎バックスも手を焼いた。宮原（俊）のアナは竹野が一人二役で補なったが。前半シュート11でわずか2点しかあげられなかったのはなんとしても物さびしかった。

延長前半はまず一分三〇秒に高村のジャンプ・シュートで桜丘会がリード。8分に宮原（藤）が中央に決めて1―1。10分高村が14メートル・スローを左に決めて前半を終った。後半は高村、浅野がともに14メートル・スローを失敗したが、浅野が二本きれいに決めて2―0、大崎も竹野が連続2点をあげてまたも2―2。高村がゴールすれば大崎も宮原（藤）がクリーン・シュートして3―3。手に汗をにぎる大接戦を展開した。8分浅野が大崎バックスをうまく抜いて右サイドから左スミにゴールして4―3、つづいて9分高村がダメ押し点をいれて大崎の反撃をみごと断ち切った。大崎バックスは高村にゆさぶられ、逆に竹野は桜丘会バックスに押えられていた。桜丘会GK山田の好守は見のがせない。桜丘会CH斎藤はこの試合で上クチビルを切った。（鷲尾）

【桜丘会】	S	得		【大崎】	得	S
山田	0	0	GK	今野	0	0
堀	0	0	FB	高森	0	0
井藤	0	0		高橋	0	0
角井	0	0	HB	村上	2	3
斎藤	0	0		黒沢	0	1
豊島	1	1		高井	1	5
服部	7	3		五十嵐	0	0
牧野	4	0		中山	1	5
稲熊	13	3	FW	宮原(藤)	3	12
浅野	11	5		井上	3	9
高村	27	11		竹野	10	29
(金原)	0	0		(宮原俊)	0	0
(宇浅野)	0	0				
反則 70	63	23		反則 40	20	64
14メートルスロー 6				14メートルスロー 4		

大阪ク 20（6―6、8―8、2―2、4―2）18 熊本ク

タイムアップ寸前に熊本は幸運にも14メートル・スローを決めて延長戦にもつれ込んだ。大阪クラブは日向、富川、今西、村田といったベテランぞろい。熊本は井（中大）楢木（中大）で固め試合の内容はよかった。この試合は熊本の善戦といった方がピッタリする。それは楢木は最近まで関東学連の役員をやっていたので練習量も少ない。それにもかかわらず6点をあげたのは立派だった。しかしオールラウンドプレーヤーの井をあまりにも酷使しすぎて疲労させたことが熊本の敗因といえる。延長にはいってからの井は鋭さがなかった。大阪は村田の好リードとバックスの中出、東が熊本FWをつぶし、GK光島の好守も光っていた。（鷲尾）

▽一般男子三位決定戦

大崎電気 22（10―2、12―4）6 熊本クラブ

◇宮原（俊）を欠いた大崎ではあったが、スピード、パスワークなどすべての点ですぐれていた。熊本は前日の対大阪戦にみせたスピードなく大崎の厚いデフェンスを

破れず、GK今野の好守で手が出なかった。大崎FWは実によく走り、ゴール前のルーズプレーは全くうまかった。竹野、井上、宮原（藤）のFWトリオで実に16点をかせいだ。熊本で光っていたのは楢木、田中、緒方の三人（鷲尾）

▽一般男子決勝

桜丘会（愛知） 16（6−9 / 10−5）14 大阪クラブ

（評）大阪は前半ポストプレーを主にして左右によくボールを回し、愛知のバックスをふり回した。愛知は浅野のフェントからのパスで攻撃は一進一退を続けたが、大阪FWのシュートは完ぺきで9−6とリードした。後半になると愛知は2点を先取して食いさがり、24分服部のシュートで14−14と追いついた。このあと28分、29分に連続ゴールを決めてみごと大阪を押さえた。大阪は後半パスが少なく、ドリブルにたよりすぎたのが悪かった。だから愛知の激しいデフェンスを突破できなかったのが大きな敗因。（荒川清美）

	【桜丘会】	S	得	【大阪】	得	S
GK	山岡	0	0	光島	0	0
FB	堀	0	0	望月	0	0
	伊藤	0	0	中出	0	0
HB	角井	0	0	富川	0	0
	宇津野	0	0	佐藤	0	0
	（斎藤）	1	0	東	0	3
FW	豊島	0	0	日向	5	11
	服部	6	4	村田	2	7
	牧野	11	4	渡辺	1	1
	稲熊	4	0	深江	2	6
	浅野	9	4	今西	3	5
	高村	9	4	（村中）	1	3
反則	38	40	16	25	14	36

高校女子

▽高校の部女子一回戦

栃木女高（栃木） 6−2 新居浜東高（愛媛）

富山女高（富山） 12−6 函館東高（北海道）

▽同二回戦

熊本市高（熊本） 6−5 栃木女高

最後まで接戦を続け延長にもつれこむと云う期待にたがわぬ熱戦だった。前半栃木はボールを廻し、パスワークのよさで4対1とリードした。しかし後半は前半のリードを守り抜く作戦に出たが、攻撃が停滞してしまい熊本3点のリードを許した。20分間守勢必死の反撃を許した。20分間守勢に立つと云うのはやはり一考されるべき問題であろう。延長戦に入ってからはお互いに全力をつくしての攻防で見応えのある試合展開となったが、熊本は石川、久蓮松の貴重な得点で追いすがる栃木を降り切った。熊本は〃走り〃が充分でなく不調のようだったが、ともあれ栃木の善戦はたたえられよう。（狩野）

井原高（岡山） 13−5 県尼崎高（兵庫）

涌谷高（宮城） 13−5 富山女高

半田高（愛知） 12−8 明善高（福岡）

名門同志の対戦。動きのあるスピーデイな好ゲームとなった。勝った半田は速攻によるパスワークと得点への結びつけが上手く、伝統のセットプレーがよく浸透されていた。明善はリードされても元気をおとさず一点差にまで詰めること五度び、その粘りは賞されよう。明善としては攻撃ペースをもう少し考えるべきであった。（松本）

▽同準決勝

半田高 14（5−4 / 9−0）4 涌谷高

	【半田】	【涌谷】
GK	正木	尾形
B	森ノ内	浅間
	小山	沼津
	早川	佐々木
FW	小島	中野
	竹内	佐藤
	磯部	川村
	青木	佐々木
	伊藤	八田
交代	小野	大場
ST	32	32
反則	19	8

試合は前半まで。後半は半田の一方的ペースで涌谷はなすがままと云った形だった。半田は得点力にムラがなくシュート数は同じだったが、確実さと勝機を生む試合運びは優勝候補の名に恥じないよいプレーが続いた。（杉山）

熊本市高 10（1−3 / 4−2 / 1−1 / 4−0）6 井原高

	【井原】	【熊本】
GK	倉橋	西村美
B	池田	八野
	名倉	徳永
	広立	清田
FW	峰山	石田
	北田	久蓮松
	館原	西村八
	大成	篠原
交代	原田	岡松
		岩田
ST	15	32
反則	26	34

地元熊本へ寄せる期待は大きくコートの周囲は三重の人垣。この声援に熊本はかえって固くなったか前半はシュートに無理が多く峰山を中心としたポストプレーで着々と加点する井原の試合運びと好対照を見せた。しかし、後半になると西村（八）が当り出し、疲れのみえた井原を守勢に追いやり延長とし、その後は体力の差を見せつけて押しまくった。井原は交替メンバーの廻転を上手くして前半の優位を保つように策を立てるべきではなかったろうか。（杉山）

▽同三位決定戦

井原高 7（5−3 / 2−0）3 涌谷高

国体スケッチ

◎熊本市立高の名コンビ

試合前に熊本市立高校のキャプテンの西村美代子ちゃんに「調子はどう?」ときいたら熊本の方言で「よかです」という。そしてニコニコと白い歯をみせて笑う。かわいい肥後女性である。「写真をとるから……」といったら「こんなまっ黒な顔ですタイ」とまた笑う。なにをきいてもエビス顔。名キーパー、あの小さな体でと感心するほどうまいプレーをみせた。FWの西村八千代ちゃんとは大の仲良し。どこで会ってもこのコンビ八千代ちゃんは美代ちゃんよりも背が高い。右手首の包帯が痛々しかった。「小指のところが脱きゅうしているんで痛いんですよ。」と体に似合わぬ弱気。でもゲームになると人が違ったようにものすごいダッシュ。攻撃のエースが八千代ちゃん。守備のエースが美代ちゃん。すばらしいコンビだ。国体開会前に熊本市立高校を訪れたとき、南国の強烈な日射しをうけて全くまっ黒だった。これは練習量の多い証拠。監督の北川先生もこの二人に大きな期待をかけていたが、残念なことに決勝で負けてしまった。しかしいいプレーヤーだった。（国正）

涌谷はやや疲れ気味。一方の井原は昨日強敵熊本をあと一歩まで追込んだ好調と全日本高校三位と云う自信があり、その差がそのままスコアになって表われた。（鴛尾）

▽高校女子決勝

半田 8（4－2 4－5）7 熊本市立

得	S	【半田】		【熊本】	S	得
0	0	正木	GK	西村(美)	0	0
0	0	森ノ内	FB	小野	1	0
1	1	小山	FB	徳永	8	1
5	12	早川	HB	清田	0	0
0	2	小島	FW	石川	2	1
0	2	竹内	FW	久 蓮 松	1	0
2	7	磯部	FW	西村(八)	14	5
0	0	(青木)		(篠永)	0	0
0	0	(伊藤)		(岡松)	0	0
0	0	(水野)		(岩田)	0	0
8	25	26	反則	18	26	7
		1	7メートルスロー	0		

（評）

夏のインターハイ決勝は熊本が7－6と1点差で半田に勝っている。高校女子のトップレベルにある両チームの対戦は実におもしろかった。しかし半田は常にリードをまもり通して熊本の2連勝をくいとめて初優勝した。半田のセットプレーといい速攻といい、若さを十分に生かしことし最高のプレーをみせた。熊本はエース西村（八）が右手の小指を脱きゅうしており見る方が痛々しかった。シュートしてもボールの押えが十分効かないためボールはすべて浮いていた。ボールの離れが早いわけだ。西村（八）はよくがんばり、この試合でシュート18、得点5を記録した。半田は徹底的に西村（八）をマークしたのがよかった。さらに熊本が四人攻撃だったので十分防ぐことができたわけだ。後半熊本が追いつめて1点差になってグラウンドを沸かせたが、前半の失点をばん回できなかった。熊本は半田の早川をマークしたが、しばしばはずされていた。熊本GKの西村（美）はピカ一。半田FWといい、熊本FWといい早い動きはよかった。（鴛尾）

スポット

声援空し地元熊本

高校女子戦で決勝に地元の熊本市女高が進出したから地元の応援も一段と熱が加わった。超満員の観衆はボールが熊本側にわたると一つ一つの動きに大変なかん声を上げ、取材に動く新聞社のカメラマンが前に立ち止ろうものならドナリつける勢い、しかし勝利は熊本市女高にほほえまず、遠来の愛知勢が握った。地元ファンはガッカリしながら、そこは「熊本国体」指導のよさ？　勝った半田高にも惜しみなく拍手を送ったが熊本市女高の選手のあるお母さんは「ここまで勝ち進んだのだからと、優勝などの欲は持つまいと思ってもシーソーゲームだけに、もしやと手に汗を握った。選手の動きと私どもの体がいつの間にか一体となっていた。こんな気持になったのははじめてです」と語ると泣きふせる選手達をだきかかえるようにひきあげて行った。

一般女子

▽一般の部女子一回戦

富山女高OG 7－2 徳山クラブ（山口）

新居浜（愛媛） 10－4 函館フレップ（道）

▽同二回戦

寝屋川ク（大阪） 8－2 富山高OG、

日体大（東京） 9－6 明善クラブ（福岡）

前半は一進一退で寺崎を中心とした明善、小林を主力とした日体とも持味を活かして接戦だった。

一般女子優勝の愛知紡チーム

しかし、後半になると日体大の練習量が明善を上廻り、時間の経過とともに差がついた。明善は後半、疲れを読んでの対策を考えるべきだったろう。（鴛尾）

熊本商大ク（熊本） 12－7 涌谷高OG（宮城）

愛知紡績（愛知） 19－2 新居浜クラブ

▽同準決勝

愛知紡績 15（9－4 6－3）7 日体大

【愛紡】		【日体】
野崎	GK	山田
山崎	B	本多
宮本	B	藪田
塚原	B	高木
磯部	FW	村上
青木	FW	小林
沢田	FW	大塚
山田	交代	赤沢
新美	交代	高橋
藪内	交代	
32	ST	27
10	反則	17

女子界のNO・1愛知紡は楽に試合を進め、着々と得点を重ねていった。一方の日体大はコンビネーションが悪く、当然とも云える結果に終ったが、その割にはシャープなシュートが活かされていた。しかし、余裕のある愛知紡は後半は若手に繰り出し楽勝、明日への余力を貯えるほどだった。（松本）

寝屋川クラブ 5（3－3 1－1 1－0 0－0）4 熊本商大クラブ

両チームとも実力充分。女子最高のゲームとなった。前半は寝屋川が大西（邦）、桑原とよくパスを廻し得点、熊本も関、井手とよく走りリードされては追いつく試合展開だった。後半は、寝屋川がローリング攻法、熊本はカットイン、ウイング攻撃と攻法を変えて攻め込んだが互いに最少点に留まり延長戦に入った。延長になるとやや膠着状態。しかし寝屋川が森口のゲットで一点を入れたのに対し、熊本は今池がマークされ、しかも寝屋川の早いつぶしにあってチャンスをつかめず、熊本は涙をのんだ。寝屋川は強烈なマン・ツウ・マンで反則49を数えたが、最後まで忠実な守りを見せたのが勝因で名門おとろえずを示した。（狩野）

【寝屋川】		【熊本】
大西和	GK	早田
森口	B	弥宮
梶原	B	松岡
桑原	B	井出
宮崎	FW	今池
大西邦	FW	関
菅井	FW	蒲原
松井	交代	内田
高岡	交代	安武
中村	交代	
26	ST	26
49	反則	36

▽同三位決定戦

熊本商大ク 7（3－4 4－1）5 日体大

前半日体は速攻が成功したが、後半は逆に熊本のパス攻撃が冴え、今池の好プレーが連続して逆転勝ち。（鴛尾）

▽一般女子決勝

愛知紡 3（1－1 2－1）2 寝屋川クラブ

（評）

好ゲームだった。寝屋川は3連勝を、愛知優勝をねらっての数

戦。前半は速攻の応しゅうで少しのスキもなかった。両チームのGKはよかった。とくに寝屋川の大西(和)のカンのよいこと。愛知紡のFWは強力、寝屋川は大西(邦)一人で愛知FWとぶつかっていた。愛知紡のFWは実によくコンビがとれ磯部、沢田、塚原の三人はすばらしかった。名門寝屋川対新興愛知紡決戦にふさわしかった。結局は1点差で寝屋川は3連勝の夢は破れた。負けても悔いのない一戦だった。(鷲尾)

【愛知】	S	得	【寝屋川】	S	得
野崎	0	0	大西(和)	0	0
山崎	0	0	森口	2	1
宮本	2	0	梶原	0	0
塚原	7	0	桑原	4	0
磯部	8	0	宮崎	4	0
青木	0	0	大西(邦)	8	1
沢田	4	2	菅井	0	0
(新美)	0	0	(松井)	0	0
(藪内)	0	0	(高岡)	1	0
計	21	3	計	21	2
反則	23		反則	48	
7メートルスロー	1		7メートルスロー	0	

―府県別順位―

▽天皇杯順位　①愛知　②熊本　③大阪　④東京　⑤宮城　⑥兵庫　⑦福岡　⑧広島、岡山

▽皇后杯順位　①愛知　②熊本　③宮城　④大阪　⑤岡山　⑥東京　富山　福岡

▽ハンドボール競技得点順位　①愛知40点　③熊本20・5　③大阪14　④東京11　⑤宮城10　⑥兵庫8・5　⑦福岡7・5　⑧岡山・広島各6　⑩富山、静岡、愛媛各5　⑬北海道、岩手　栃木、京都、和歌山各2・5

牧野がなお、愛知県の四部門(高校男女一般男女)独占は、第二回大会(昭22)の大阪に次ぐ二度目の快記録である

大崎チームは若い

桜丘会戸田監督の話　「やはり強敵は新鋭大崎電気だった。勝てると思う反面不安も大きかった。大崎は前半宮原の欠場でまとまらず、うちのペースで試合が進められたので9―4とリードできたが後半1―1からうちがもたつく間に大崎は調子に乗り、アッと云う間に逆転された。しかし選手もよく頑張って同点とできた。途中斎藤が負傷してバックス陣が心配だったがかえって全員やる気を出してくれた。延長になればやはりうちの伝統がものを言ったわけだ。大崎とうちを比較してみると大崎は単独チームでチームワークがよく練習量にも恵まれているがなんといっても若いチームだからうちとしても突込めたわけだ。うちは結合チームで仕事の関係上練習時間は日曜だけに限られているし、大会前に一週間の合宿をやったが合宿といっても仕事が終ってから夜集り全員泊って出勤前に練習をやるわけで、かなりムリがある。平均年令はうちの方がやや上だろう。決勝の対大阪クラブ戦には充分の自信があったし楽に試合が進められた。

意外！大崎(電気)熊本(市女)の敗退

国体をみて

愛知県が四種目に優勝し、文字通りの完全優勝だった。一般男子桜丘会。一般女子愛知紡。高校男子中京商、高校女子半田高で桜丘会は第十一回大会についで二度目。そのほかはいずれも初優勝である。愛知が強いというのはわかりきっていたことだが四種目優勝とはだれも予想しなかった。一般男子は大崎電気(東京)。高校女子は熊本市立(熊本)が本命だったから…。わたし自身もそう信じていた。

(一般男子)

○……準決勝の大崎電気(東京)対桜丘会(愛知)は事実上の決勝戦だった。しかし前日大崎電気のポイント・ゲッターである宮原(俊)(芝浦工大出身)が右足を痛めて欠場した。これで桜丘会に七分の勝利となった。宮原(俊)の欠場は大崎の初優勝を逸した大きな原因といえる。それでも大崎電気は竹野、宮原(藤)井上らの大活躍で対等にゲームを押し進めたのはさすが。ゲームの興味は竹野(大崎)対高村(桜丘会)の打ち合いとなった。後半大崎が追い込んで16―16となったとき、宮原(俊)の欠場がいかに大きかったかがわかった。大崎FWは中山、宮原(藤)、井上、竹野の四人が主力、どうしても役者が一枚足らなかった。大崎にしてみれば宮原(俊)のアナを残る四人で補なった形。大崎がもし勝つとしたらそれは高村を徹底的にマークすることだった。ところが高村はこれを十分計算に入れてジャンプしながらロング・シュートの連発、これには大崎のバックスも手を焼いた。だからこのゲームは高村の一人舞台だった。

	シュート	得点	成功率
高村	27	11	・417
今野	29	10	・345

この数を比較してもわかるように高村のシュートはかなり高率だ。

○……熊本クラヅも予想外によくやった。井、楢木(ともに中大)を補強したのが実をむすんだ。大阪クラブはベテランぞろい。決勝で9―6と桜丘会をリードしたが後半14―14から28分牧野のロング・シュートが左に決まり。29分牧野に左スミにゴールされて涙をのんだ。高村がマークされると牧野にボールを集めたのはよかった。勝負は別としていいゲームだった。一回戦の全岡山対住友化学菊本(愛媛)も延長戦となり大いに沸かした。

(一般女子)

○……愛知紡は練習量が多く試合運びがうまかった。決勝で寝屋川クラブとのゲームは速攻の応しゅうで見ごたえがあった。寝屋川は大西姉妹がよくがんばっていた。熊本商大クラブ、日体大は力不足。熊本商大クラブにもう少しスピードがついたらたのしめる。

(高校男子)

○……中京商の優勝はともかく、

決勝に進んだ明石は立派だった。地味なチームでコツコツとポイントをあげ、準々決勝で地元の熊本市商をダブル・スコアの21—5で破った。これで自信をつけ、準決勝でも清水市商と一点差のゲームをやり9—8で勝ってしまった。自信を持ったときの明石は強い。FWのコンビネーションがよかった。

○…中京商のスピードは超高校級といっていい。速攻の連続、ゴール前のローリング・パス、両サイドの使い方など大学級の力を持っていた。早くて低い三角パスに相手バックスはだい分手を焼いていた。ベスト・4に残った盈進商(広島)は全くのダークホースだった。鎌倉学園(神奈川)を8—5で破った。もっとも鎌倉学園は昨年よりもスケールが小さくなったが、これを破った盈進商の試合運びはうまかった。盛岡一高(岩手)が一回戦で富岡高(群馬)を12—11、二回戦で寝屋川高(大阪)を9—8で押えた。準々決勝で清水市商に7—5で敗れたがそのファイトは大したもの。東北ハンドボール界のために気を吐いた。これは箱崎監督のコーチがよかったからだ。山形県から初めて国体に参加した山形東高は明石高に対して善戦し、後半1点を入れたのはほめていい。球歴の浅いチームが堂々と国体に出場できたのはこれからのよき資料になろう。神代高(東京)はクジ運が悪く二回戦で中京商に敗れたが、これからのチームで将来たのしめる。和歌山商、坂出工(香川)、函館中部高も感じのよいチームだった。

(高校女子)

○……二位になった熊本市立(熊本)はあぶない橋を渡りながら決勝に進んだ。準々決勝で栃木女(栃木)、準決勝で井原(岡山)といずれも延長戦という苦戦の連続だった。これほど苦戦するとは思わなかった。それはポイント・ゲッターの西村(八)が右手の負傷でコントロールを欠いていたからだ。このハンデキャップを背負いながらとにかく決勝に進んだのは気力があったからだ。

○……優勝した半田高(愛知)についてはなにもいうことはない。優勝候補の熊本市を破ったのだから……。さすがはハンドボール王国といわれる愛知代表のことだけはある。涌谷高(宮城)の準決勝進出は当然のこと。井原高が準決勝で熊本市立と延長戦をやったのは賞されていい。新居浜東(愛媛)、明善高(福岡)はもう少しスピードをつけたら伸びるだろう

室内シーズン近づく

明春1月　東京で第7回全日本

十一月二十七日の全日本学生王座決定戦が終ると、四月に始まったフイールド・シーズンが閉幕し、代ってインドア・シーズンの到来である。近年、インドアの面白さが、内外にようやく判りかけた時、今年は明春の男子七人制世界選手権大会への初参加や、オリンピック東京大会のハンドボールは七人制になりそうだと云うニュースも伝わっており、一そう興味をかきたてるシーズンになりそうだ。

※……………※

ハンドボールと云うと、サッカーの逆だと覚え込んでいて、"室内と云うのがあるよ"と云うとヘエーと云うムキもまだまだ多い。それもそのハズで、日本がこのシステムを移入してからまだ八年の歳月しか経っていないのである。ところが"七人制(室内)"を一度でも見た人がいると、フイールドより数段面白いと云う。

ルールも戦法も大巾に違い、特に見た目には現代感覚と云われる「スピードとスリル」があって確かに面白い。

本場のヨーロッパにおいても、最近は、フイールドよりインドアに人気が移っており、各国のインドア選手権者を集めた"ヨーロッパ・カップ・トーナメント"(本誌創刊号海外ハンドボール通信参照)は、今やヨーロッパ・アマ・スポーツ界のビッグエベントの一つにさえ数えられていると云う。

オリンピック東京大会でも、ハンドボールが採用されたら七人制にしようじゃないかと云う声があがっており、ハンドボールと云えば室内スポーツと答える日が来ないとは云えなくなった。

日本ではまだ八年

さて、日本では、来春三月、西ドイツで開かれる第四回世界(男子)選手権大会に代表チームが出場することに決定して(=別面詳報)いるが、前にも述べたように、我国に"七人制(室内)"が紹介されてから、まだ八年しか経っていない。公式的な大会の嚆矢は昭和二十八年大阪で開かれた第一回西日本室内選手権大会で、全日本(綜合)選手権は昭和二十九年十二月、大阪で第一回大会が開かれたのが最初である。

面白いことに、我国では"七人制(室内)"は、関西の方が早く普及した。これは指導者の理解と、大阪周辺により多く体育館があったからではないかと思う。第一回の全日本総合選手権は、大阪で開いたセイもあったが全参加三十チームのうち、京阪神地区からの出場が二十四であり、女子は全参加七チームが近畿勢であった。

しかし、優勝者となると男子は第一回以来関東側が握り続け、そうしたことが刺激となって関東はもとより昭和三十年頃からはそのチーム数も全国平均して増え、四月から十一月までがフイールドシーズン、十二月から二月までがインドアシーズンとおのずから色分けされることになり、現在では全国の中学、高校の殆どに普及し、旅行する車窓の中からも、ほとんどいたる所の校庭に二色にぬられた七人制ゴールが設けられているほどの発展ぶりである。

第七回大会も東京

"七人制(室内)"が、こうまで早く普及したのは小人数で済むためのチームが作りやすいことと、昭和三十二年から国内の女子はすべて時季を問わず七人制に統一したことも原因している。チー

ム編成が容易なことは、各地に七人制専門のクラブチームが出来たことでも判り、また、実業団でも七人制ならと云うところがかなり多い。

ところで、今年の全日本総合選手権大会第七回は予定では、明春一月末、東京の台東体育館か新宿体育館で行われることになっている。

東京での開催は、今春一月の第六回大会に次いでのもので、特に台東体育館は地の利は必しもよくないが、インドアハンドボール向きでスタンドも見やすく、その醍醐味を味わえる点では、全国でも屈指の設備である。今年は最終日の男子決勝戦で、芝浦工大が全日体大に驚異的な逆転を遂げるとともに、四つ目の全国タイトルを得ると云う偉業を樹立した思い出のゲームを演じており、女子でも、第一回以来最高の十六チームを集めるなど、東京初公開と云う懸念されたハンディも逆に室内ファンを獲得すると云う大ヒットを飛ばして成功を納めている後だけに、第七回大会への寄せる期待も大きい。

現われるか室内新戦法

第七回大会への期待の一つは、これまでの大会では、二、三を除いてはどのチームもフイールドと殆ど同じような戦法を用いていたが、この大会辺りから室内には室内特有の試合運びが考えられて来て、その激しい応酬となりはしないかと云うことである。

室内では一回のパスで相手ゴールへ寄せることも出来るのだし、横パスと云うものはそう効果の大きいものではない。タテのショートパスを使った〃室内戦法〃が各チームのカラーにあわせて作られれば、それだけで充分見応えのある試合が展開されよう。

室内選手権の時は女子の方が面白いと云われるが、女子は否応なしに七人制であり、これまでの十一人制の概念を一切捨てて、新しい戦法とチームカラーを作らねばならず、そのために各チームが非常に苦心を払って〃攻防図〃を作り上げているからで、その点、男子の方は今までの大会では、どうしてもフィールド臭が残ってしまっていた。

室内の普及と発展向上は、技術面からも、この大会あたりで大きな変化と伸展を見せるものと期待される。

参加チームと云う点でも、第七回大会は記録的な大会になるのではなかろうか。ただ、学生チームが試験前のため参加が難しいと云うケースもあるが、クラブチームや実業団の目星しいところはほとんど顔を揃えよう。

第六回大会では、高校チームの鎌倉学園（神奈川）が大活躍をして、三位に食い込む健斗を見せ、女子でも遠来の熊本クラブが初優勝を飾るなどして話題豊富だったが、第七回大会も連覇を狙う快調芝工大（東京）、名門の名にかけても自らの手で芝浦打倒を果したい全日体大（又は日体大・東京）それに早大、教大、立大、法大、慶大と云った関東諸校あるいはそのOBチームそしてその角逐に東日本の地方勢も当然また加わることになろう。一方女子でも愛知（愛知紡）対熊本（熊商大クラブ）と云う宿命の対決や、日体大（東京）栃木女高、静岡城北クなどの名門、それに伝統の茨城勢による優勝争いは、今年度ハンドボール界の総決算大会にふさわしい内容となるだろう。

〔註〕第七回全日本総合室内選手権大会は36年1月24日から5日間、東京の台東体育館で開催されることにきまった。申込み〆切りは1月10日、日本協会まで必着のこと。

▽年次優勝者

（男子）
第一回　日体大、第二回　日体大、第三回　全芝浦工大、第四回　日体大、第五回　全日体大、第六回　芝浦工大

（女子）
第一回　春日丘クラブ（大阪）
第二回　日体大、第三回　日体大、第四回　半田高（愛知）
第五回　寝屋川クラブ（大阪）
第六回　熊本クラブ

七人制ハンドボールの〃魅力〃

小川励行

ハンドボール競技も中、高校と教材なって急げきに競技人口がふえて来た。

室内ハンドボールもおく外の広大なグランドを必要とするに批例して体育館内で自由にやれるという点からこれ又一じるしい進歩を示して来た。室内ハンドボールのみ力は前記したような一個の手狭なコートでも競技可能だし、しかも現代人に要求されるスピードがより以上ある事にある。

屋外の番外中盤でのせり合いが出なく試合が時ととしてゴール前だけに終始する場面が多く又ゲームの流れというものが中断されやすい、その点室内ハンドボールにもあるとはいえそこは速攻とスピードを加えて中盤での変化にとんだ遅速攻を屋外より、より以上スピードと変化にとんでやるものみるものにとって充分この競技をたんのう出来る。

ここに七人制ハンドボールのよさもある。バスケットのように激しい動きと活動力を要求されるが、女子にも簡単になじめるし施設の点も体育館があれば充分にプレーが出来るもの。バスケットのコートと併用してコートを作成しておればいつでもわずかな時間に楽しめるということも屋外競技に対して七人制のよさがある。中高校生を対照とした競技としては手ごろであり設備も簡単で高度な技術もあまり必要としないだけに誰にでも親しまれるのが七人制の長所でもあろう。

（筆者はデイリースポーツ記者）

菊の香も高い国体会場

＝楽書帖＝　第4回

鴛尾武治

水俣の国体はとにかく盛大だった。これですべてをいいつくせると思う。水俣市長をはじめ国体事務局の努力というものは表現できないほどだ。浜公園グラウンド、水俣一小、水俣二中の三カ所でスムーズに行なわれ本当に気持がよかった。昨年水俣市で全日本総合選手権を開催した関係で市長さん、助役さんがハンドボール・ファンになっていたことが大きなプラスとなった。

もちろん熊本県ハンドボール協会の努力も見のがせない。熊本県に近い水俣でこんなに歓迎されようとは思っていなかった。

わたしは新聞記者として第一回国体から熊本の国体まで数多い国体を見てきたが、水俣のように気持よく仕事ができたのは初めてだった。いままでの国体で相撲、卓球、軟式庭球、バレーボール、ボクシングとあらゆるスポーツを見てきた。しかし水俣市で受けたあの大歓迎にはおどろきもしたし、逆に感謝もした。

○……なにかの手違いで湯之児温泉の三笠屋で共同通信社の部屋がなかった。普通なら腹を立てて国体事務局に怒鳴り込むのだが、地元の白取さんや熊本県ハンドボール協会の藤田さん（熊本済々黌の先生）がよくお世話してくれた。それで日本ハンドボール協会理事長の高島さんの部屋に転がり込んだ。高島さんは親友でもあり、"オイ"、と"貴様"で通る仲なので狭い部屋に同宿したわけ。

○……浜公園のグラウンドでびっくりしたのは一般の観覧席があり大会第一日の二十四日はぎっしり満員となった。こんなことは珍らしいのではなかろうか。本部席の前には白菊、黄菊の鉢がズラリとならび、真夏の気候のなかで秋の気配を感じさせた。地元の白取さんが「どうです。この菊のみごとなこと」と自慢していた。自慢するだけのことは十分ある。また白取さんのお嬢さん（…といっても日体出身、京都で中学の先生をやっている）はわざわざ京都から水俣までやってきて本部記録席に陣取り、記録の整理を手伝っていた。名前は愛玲（あいれ）といいまだ独身。父娘でハンドボール・ファン。

○……国体が始まる一週間前に熊本市立高校に行ってみた。女子高校ナンバーワンチームをみるために。男子生徒は一人もいない全くの女学校。肥後女性の集団をみてびっくりした。広いグラウンドでトレーニングにはげむこのチームのたくましさ。南国の強い日光を浴びなんと真っ黒なこと。

時評

やたらに増えた無暴な反則

粗暴と斗志を混同するな

最近のハンドボールはやたらに反則がそれもバックスの反則が多くなった。大学も、高校もである。両チーム合せて六十と云うのがごく当り前な数字になって来ている。単純な算術をすれば、一般男子の試合は六十分、つまり、一分間に一回はレフェリーのホイッスルが吹かれているわけである。

斯界の最高峰であるハズの去る七月の全日本学生選手権を例にとると全二十三試合のうち、両軍の反則合計が七十以下と云うのが十四試合、そのうち六十以下は七試合

もち論、反則も一つの戦法として用いられるケースもあり、さけられるファールと云うものもあるが、最近のバックスの反則の特徴（？）は無暴に近いラフ・プレーが多いと云うことで弁解の余地がなくこれが"問題"なのだ。反則全盛？を物語るエピソードとして、ある記者が筆者に「〇〇大学は試合しやすい。あそこのバックスの当りはキレイだからFWは抜きやすいだろうし、ボールもよく廻る」と関東リーグの某大学のFWが話しているんですからねとガイタンしながら話してくれ、その記者は「もう、関東リーグじゃ本当のハンドボールは見られないかも知れませんよ」とつけ加えた。

いったい、今の選手達は反則を何と考えているのだろう。最近の学生界が低調だ、つまらないと云われる原因は案外こんな所にあるのではないか。

少なくとも、反則は悪いプレーと云う考えよりも、反則はしなければ損だと云う考が支配的なことは間違いない。三十五メートルラインの設定以後、反則は目立って増えて来ている。相手六人。味方六人。これまでよりも対人攻防が増して来たのは事実だが、面白くするために、ルールが改定されたのに、逆に反則を誘発していると云うのは、日本のハンドボールが未熟だと云うことも露呈しているようなものではないか。

もっとも一方ではあるOBのように「昔は一寸くらい引っぱられたり、突かれたりしても痛そうな顔をしたり、ましてやすくボールを落としてしまうことなんかなかった」とむしろ、反則を喰うFWさえしっかりした技と精神さえ持っていたらと云いたげだった。その是非はゆずるとして、少くとも、バックスの反則が多くて面白い試合など期待出来るハズがない。

海外一流チームの来日でようやく走るハンドボール、走らねば勝てぬハンドボールに成長しつつある時、そうした発展を阻害するような反則の多発は、この際レフェリーソサエティ等各関係審判機関としても早急に対策を公けにすべきだ。

公算半ばの五輪ハンドボール

決定的な十八種目　カギ握る〝普及度と経費〟

B　Aさん、オリンピック・ハンドボールのその後はどうなりました?

A　おやおや、B君の方が詳しいのかと思ったが、僕に質問かい?

B　いや、もはやJHA（日本ハンドボール協会）だけの動きから判断や予測は立たなくなりましたもので……

A　それは、こちらとても同じことさ。JOC（日本オリンピック委員会）の動きだけじゃどうしようもないのだからな。

B　でも、カギはJOCが握っているのでしょう?

A　たしかにJOCが一応種目制限をしてそれから改めて来年五月のIOC（国際オリンピック委員会）総会に開催種目を提起するのだけど、しかしJOCとしても一朝一夕に削れるものじゃないから大変だ。

B　卒直に云ってハンドボールは危いでしょう。

A　危いとも危くないとも云える。しかし絶対大丈夫とは云えないな（笑）

B　判ったような、判らないような答えですけど、ローマ大会から帰った体協関係者はみな東京大会は柔道を含めた22種目開催だと云っていたのに、一ケ月足たぬうちに、JOCで種目制限を発表すると云うのはどうゆうワケですか。

A　22種目と云ってはいたものの、これは今となってはカモフラージュだな。一説には九月十日にローマで行なわれたIOC実行委でオリンピックの開催種目を15あるいは18種目にして、これは東京大会から適用すると申し合わせたのだそうだから、日本の体協関係者の首脳陣は帰途すでにこの申し合せを知っていた勘定だ。それを、帰国した時、相変らず22種目可能説を発言していたのだからネ。

B　影響多しと見たのでしょうネ。

A　おそらくそうだろう。だからこの問題についてJOCとしては正面から取り組むことをさけているわけだ。

B　で、ともかく22種目開催の線は崩れたわけですか。

A　もはや決定的だネ最高18、最少の場合は15種目と云うことになりそうだ。もしそうなるとハンドボールは18種目なら当落選上、15種目なら難かしいと云うことになる。

B　当落の基準になるのはやはり過去の実績でしょう。

A　そう、それと費用のかからないこと、広く普及していること、将来日本のスポーツ振興に役立つものと云うことが加味されるだろう。

B　費用のかからないことと云う点で思い出されるのですが、IHF（国際ハンドボール連盟）では、東京オリンピックに加えられる場合には十一人制ではなく七人制を行なうと発表していますネ。

A　七人制だと、たしかに経費の面で助かるからネ。しかしIHFとしても、これはあくまで案の域を脱していないらしい。

B　広く普及していると云う面でも高島理事長なんかは〝他の競技団体が六十年近くかかった所を、ハンドボールは二十年でやって来た。普及の早さが判っていただけると思う〟と話していますしネ。

A　そうだよ。たしかにそうして一つ一つを分析してみるとハンドボールは開催条件を満足させるだけのモノを持っているんだが……

B　でもなにかが足りない……

A　実績、それにPR不足と云った所かな。しかし、ヨーロッパ各国の関心はものすごく高いよ。

B　ベルギーで九月末に開かれたIHF総会でも、ともかく〝東京大会参加を当面の最大目標〟としてJHAに協力するように各国衆議一決で決めたと云うし、国際的なバックアップは積極的になって来ましたからネ。

A　しかもネ、IHFの会長であるハンス・バーマン（スイス）氏から東京大会には21ケ国の参加が予定されていると云う公文書さえ届いているんだ。

B　東京新聞のスポーツ欄のコラムに「JOCはこれをハンドボールの事前運動ではないかと神経をとがらせている」と書かれたあれですネ。ヨーロッパ各国の活動も積極的に表面におし出て来た感じです。JHAとしても尚一層の努力を払わねばなりませんナ。

A　技術面ではルーマニア戦で日本のレベルがA級なことが立証されたのだし、専門コーチに荒川清美氏も推せんされている。技術面の方は、一応今のところ万全らしいから、君の云う通りJHAとしては最後の勇をふりしぼる時が来ているな。

B　メドがつくのは十二月半ばと云う説もありますが――

A　競技種目の整理を担当する小委員会が近く設けられるから、早ければ年内になんらかの線が打ち出されるだろう。

B　種目の選択はIOCに一任せよと云う声もあるし、波乱は当分つづきそうな予感もしますネ。どうも色々有難うございました

連勝芝蒲工大遂に敗る!!

関学終始試合のペース握る

学生王座決定戦　見逃せない斗志と団結力

第四回全日本学生王座決定戦は十一月二十三日午後二時半から、西宮野球場特設グラウンドで、東日本代表芝浦工大（関東）と西日本代表関学（関西）との間で行なわれた。主審、村田弘（日体大OB）スローオフ関学。

関学（西日本）12（8—4／4—7）11 芝浦工大（東日本）

○…この日まで四十七連勝を続ける全日本チャンピオン芝浦工大には自信と誇りがあれば、一方の関学には王座戦出場十三回と云う伝統と、名門の名にかけてもと云う意地があった。

○…しかし、試合前まで、誰の目にも精神的な面における芝浦工大の優位は動かせなかった。今夏の全日本学生準決勝で関学を降していると云う点でも、また、昨年の王座戦でもやや一方的なペースで勝利を得ている点でも芝浦工大には余裕があった。

○…結果から論じれば、芝浦工大の敗因の一つはここに秘んでいたと云えよう。昨秋から今年の春、夏に見せた関学の試合ぶりと、秋に見せた関学の試合ぶりは大きく変化し、そして成長していた。その点に芝浦工大は計算違いをしていたのではなかろうか。

【関学】		【芝浦】
河原	GK	本
小藤、山	FB	藤、上
富、安、村	HB	倉、口、井
淵、川、部、田、田、向、場、地、井（ほか 山、日、市、宮、藤）	FW	藤、村、田、山、川／福、尾、村、勝、田、武、佐、北、山、金、塩
34	ST	38
42	反則	35

交代（芝）FW＝間

○…立上り、芝浦は1分LW塩川のシュートで素早く1点をあげたしかし、その後、関学は2分、8分、9分とRI日向をプレーンとしてCF市場が芝工大デフェンスをたて続けに破って3—1と逆にリード。このあたりから試合は完全に関学のペースで進められた。しかし、どうしたことか球の廻り悪く、その上関学の激しいオールアタックにあい珍しくFWがドリブルを使って突進したが、重いグラウンドで思うような効果が挙がらなかったのも誤算だった。

○…優位に立った関学はその後も緩急自在の巧妙な試合運びを見せた。その第一は芝工大がゲッターとして徹底的なマークに出たRI日向が殆ど積極的な攻撃を見せずパッサーとして、他のFWをよく動かし、相手の関心を自分に引きつけておいて市場なり、山田なり藤井なりにためらうことなく好配球したリードマンぶりで、第二はFWが相手のバックスの球出しにすばやいアタックを見せて、FWの速攻のタイミングを狂わしたことであった。

○…この二つの関学の戦法は、芝浦工大に対する研究成果の表われであり、更に、チームワークのもたらしたものであった。まさに名門の伝統と団結の結晶であり、この試合の内容と意義を一段と高めるものであったと云えよう。また関学が自らのスローペースにじれることなく、それに徹したことと逆に芝浦工大が警戒しながらもそのペースにはまりこんだのも見逃せない。

○…後半になっても関学は意欲的な攻防を見せた。試合前、渡辺関学監督は芝工大FW対関学バックスと云う巷説を嫌い〔次頁へ続く〕

芝浦工大連勝のあと

（戦勝敗）

勝負	記録	相手	月日	場所
○	16—10	同志社	34.7.2	西宮
○	19—8	早大	3	〃
○	11—8	京大	4	〃
○	18—11	明大	5	〃
（優勝　以上第2回全国学生選手権）				
○	33—1	四日市商高	8.13	水俣
○	17—15	桜丘会	14	〃
○	15—9	中大	15	〃
○	24—16	全明治	16	〃
○	18—15	全日体大	17	〃
（優勝　以上第11回全日本総合選手権）				
○	21—2	立大	10.18	駒沢
○	28—8	教大	31	〃
○	22—6	慶大	11.1	〃
○	18—10	早大	2	〃
○	9—7	中大	3	〃
○	13—10	明大	7	〃
○	19—16	日体大	8	〃
（優勝　以上関東学生秋季リーグ）				
○	21—5	東北学院大	11.15	仙台
○	26—4	名古屋工大	〃	〃
（優勝　以上第3回東日本学生選手権）				
○	24—17	関学	11.29	国立
（優勝　第3回全日本学生王座決定）				
○	29—3	明星クラブ	35.1.29	東京
○	14—11	早大	30	〃
○	23—15	滴水会	30	〃
○	14—13	全日体大	31	〃
（優勝　以上第6回全日本室内選手権）				
○	20—5	防衛大	35.5.8	駒沢
○	7—6	慶大	14	〃
○	24—11	教大	15	〃
○	18—4	明大	21	〃
○	19—7	早大	22	〃
○	20—10	中大	28	〃
○	13—10	日体大	[illegible]	〃
（優勝　以上関東学生春季リーグ）				
○	30—15	教大	7.14	駒沢
○	15—14	日体大	15	〃
○	11—9	関学	16	〃
○	13—9	明大	17	〃
（優勝　第3回全日本学生選手権）				
○	24—7	全立教大	8.11	大曲
○	11—4	白亜クラブ	12	〃
○	20—7	桜丘会	13	〃
○	13—10	大崎電気	14	〃
（優勝　第12回全日本総合選手権）				
○	19—7	法大	10.16	駒沢
○	24—7	慶大	22	〃
○	20—7	教大	29	〃
○	18—8	早大	30	〃
○	12—7	明大	11.3	〃
○	19—11	中大	4	〃
○	20—11	日体大	6	〃
（優勝　以上関東学生秋季リーグ）				
○	24—5	東北学院	11.12	名古屋
○	24—9	中京大	〃	〃
（優勝　以上全日本学生王座東日本予選）				
×	11—12	関学	11.23	西宮

芝浦工大、文句なし

全日本王座東日本予選

二位中京大　三位東北学院

第四回日本学生ハンドボール王座決定戦東日本予選会は十一月二日、午前十時から名古屋市の鶴舞球技場に芝浦工大（関東秋の優勝校）東北学院大（東北、北海道秋の優勝校）中京大（東海秋の優勝校）の三校が参加して行なわれ芝浦工大が予想通り圧倒的な強さを見せて四連覇を遂げた。なおこれで、芝浦工大は昨年七月二日、第二回全日本学生選手権で同大（関西）に勝って以来、この日まで通算四十七連勝の偉業を遂げた。

▽第一試合

中京大（東海）　18―17　東北学院（東北）

	【東北】		【中京】
GK	石垣	GK	木戸地
FB	高橋克	FB	石原
	宮崎		森川
HB	佐藤	HB	神山
	菅田		山田
	相沢		高橋
FW	村上	FW	近藤
	高橋芳		馬場
	斎		羽上田
	高橋長		伊藤演
	藤井		佐藤精
ST	32	ST	30
反則	21	反則	38

▽第二試合

芝浦工大（関東）　24―5　東北学院（東北北海道）

	【芝工】		【東北】
GK	福本	GK	石垣
FB	尾藤	FB	高橋克
	村上		宮崎
HB	久保	HB	高橋実
	田口		菅田
	武井		相沢
FW	佐藤	FW	村上
	北村		佐藤
	山田		斎
	金山		高橋長
	塩川		藤井
ST	33	ST	30
反則	11	反則	11

▽第三試合

芝浦工大（関東）　24―9　中京大（東海）

	【中京】		【芝工】
GK	北川	GK	福本
FB	石原	FB	尾藤
	森川		村上
HB	神山	HB	久保
	山田		田口
	高橋		武井
FW	近藤	FW	佐藤
	馬場		北村
	羽上田		山田
	伊藤演		金山
	伊藤精		塩川
ST	30	ST	33
FT	11	FT	11

○…優勝は芝浦工大に戦わずして決まっているようなものであったが、しかし地方学生界の実力を問うにはよい機会であった。特に最近擡頭している東北球界の東北学院大、それに中京商のメンバーを多量に迎えている中京大と地方学生界でも注目を集めている二校が顔を揃えていただけに一応の興味はあった。

○…第一試合、東北学院×中京大は、東北の力一杯の試合ぶりで接戦となった。特にCF斎がよく当り、GKの死角をつく好シュートを放って得点。東北は押し気味に試合を進めた。これに対して中京大は、チームプレーがあまり見られず、羽上田の個人技でどうやら点差を開かれずに済んだ。後半、東北は遅攻を採ったが、ようやくパスワークの整いだした中京大の追撃にそれまで絶えず先手をとった攻撃が、後手に廻るようになり最後は、羽上田、両伊藤、近藤らの個人技がモノを云う結果になった。東北はオーソドックスな攻守を見せたが、それだけに攻撃が一本調子になっていたのは、否めない。

○…第二試合、芝工大×東北学院は東北ははじめこそ芝工大のFWの動きについていたが時間の差とともに点差を開かれ、攻めても、芝工大バックスの方がはるかに帰陣が早い有様で攻守に脚力の差がはっきり表われてしまった。

○…第三試合、中京大の食い下りが期待されたが、やはり脚力の差とデイフエンスの差が表われ、芝工大のシュートは、ほとんどノーマークで自在の方向に決まった。中京大は前半、FTをLW伊藤（精）がよく活かし、その後も芝工陣内によく攻め込んだが肝心の所で動きが止まってしまった。芝工バックスの陣形を崩すだけの力がなかったと云うことになろう。

▽…勝った芝工大のFWパスも、途中から降り出した冷雨にわざわいもされたが、乱れ勝ちで決してよい出来ではなく、秋季リーグ戦後一週間。調子はやや下り坂のように見受けられた。

○…大会を見ていた三谷（関東・明大）前田（関西、同大）両学連委員長は「芝工大の優勝は文句なしだが、地方チームのレベルは前年よりはるかに上っているが、関東、関西の中央勢に加われば二部の上位程度ではないか。しかし、個々には秀れた選手もおり、積極的に中央勢と交流する機会を持つべきだろう」と話していた。

【杉山茂】

関学、山口大を圧倒

初の全日本王座

西日本予選開く

第一回全日本学生王座西日本予選会は、十一月十四日午後三時から山口県山口大球技場で、山口大（西日本）と関学（関西）の間で行なわれ、関学が攻守に山口大を圧して快勝、第一回の優勝を遂げた。これで、関学は全日本学生王座に四年連続出場することになったわけである。

▽西日本代表決定戦

関学（関西）　23（12―2、11―1）3　山口大（西日本）

○…中、四国、それに九州を代表する山口大は、張り切っての試合ぶりだったが、実力の差はいかんともしがたく、脚力のあるFWにデイフエンスがついて行けず前半で大差をつけられた。また、攻めても定評のある関学バックスに動きを封じられて、後半は体力差も表われて一方的な経過となった。関学、順当の勝利である。

〔18頁からつづく〕「取られても取る。真正面からの積極的なFW戦が勝敗を決める」と云った言葉通りの試合展開だった。しかし、芝工大も流石に後半、猛然と走りまくり、特に20分すぎから見せた気力は見事であった。もしこの奮起が最初からあったならと思はせるものであっただけに、前半の不調は芝工大にとって余りにも大きい悔いを残したと云うことになろう。又ポイントゲッターRW佐藤が足の故障で試合の大半は四人のFW攻撃で、得意の六人攻撃が出来なかった事もあっただろう。

○…ともあれ、関学は、堂々と芝工大を降した。鮮やかだった。見事だった。そして、その勝利は周到な準備と猛練習の賜でもあったし、この日を期したチームの闘志はすばらしいものであった。

芝浦工大、七連覇成る

二部は立大

関東学生秋季リーグ

秋の関東学生リーグ戦は十月十六日から一部八校、二部八校が参加して駒沢ハンドボール場で行なわれた。

▽第一日（十月十六日）

（一部）

芝工大 19－7 法大
日体大 17－3 慶大
明大 19－11 教大
早大 13－10 中大

（二部）

学芸大 13－10 茨城大
順天堂大 15－14 東大
防衛大 不戦勝 千葉大
立大 不戦勝 武蔵工大

【第一日目から】荒馬法大が緒戦で固くなる芝工大にどう食いつくか興味を持たれたが、芝工大の地力は流石で、春に比べて安定度を増した攻守に法大は最後までつけいるスキがなかった。中大はFWの整調未だしで、早大の豪放なFW攻撃に一歩をゆずり早くも土をつけ、二部では前季に続き順天堂が東大を破り注目された。初日から二校の棄権があったのはいただけない。

▽第二日（十月二十二日）

（一部）

日体大 18－14 法大
芝工大 24－7 慶大
早大 17－15 明大
中大 16－6 教大

（二部）

学芸大 16－11 順天堂大
東大 14－9 茨城大
防衛大 不戦勝 武蔵工大
立大 不戦勝 千葉大

【第二日目から】インカレで日体大に善戦した法大は自信のある攻撃で前半健斗した。後半も一歩も引かぬ奮戦だったが、終盤詰めの悪さを見せて惜敗した。日体大の試合運びと体力に一日の長があった。調子の波にのる早大は接戦の末明大も食った。シーズン前低調をうわさされた早大の試合ぶりはこれから先が楽しみである。

▽第三日（十月二十九日）

（一部）

慶大 11－9 明大
日体大 19－11 早大
芝工大 20－7 教大
中大 19－12 法大

（二部）

学芸大 17－4 武蔵工大
東大 不戦勝 千葉大
防衛大 22－11 茨城大
立大 14－12 順天堂大

【第三日目から】慶明戦で慶大が勝ったのは昭和31年秋の東京リーグ以来のことである。明大は秋になると力が落ちると云われるが、はたして拙攻が相次ぎやられてしまった。慶大は守備陣の健斗を後立てにFWがよくボールを廻したのが勝因。日体大は出足悪く、早大の荒いペースに巻込まれて苦戦となったが、後半になるとバックスが早大FWの動きを封じ、攻めてもテンポの早い攻法で早大を引放した。中大はようやく上り調子。二部では順天堂が敗れこそしたが、後半立大を7－5とリードしたあたりチームの成長を印象づけるものがあった。

▽第四日（十月三十日）

（一部）

中大 12－10 慶大
法大 15－13 明大
日体大 27－7 教大
芝工大 18－8 早大

（二部）

東大 16－9 武蔵工大
順天堂大 10－9 防衛大
立大 20－10 茨城大
学芸大 不戦勝 千葉大

【四日目から】調子づいた慶大が中大に食い下り第一試合は予想外の接戦となったが、FWはブのある中大が辛うじて勝った。法明戦は法大のFW力の強さがいかんなく発揮されて明大を久々に破った。後半、ややラフなプレーも見られたが法大の気力勝ちと云える一戦だった。日体大は今季最高得点をマーク、危な気なく勝って四勝をあげれば芝工大も、早大のロング攻撃を警戒しながらも、攻守したプレーで着々と得点、力の差を見せた。二部では立大と学芸大が四勝をあげトップに立ち、前季一部の防大は順天堂大に敗れた。

▽第五日（十一月三日）

（一部）

日体大 19－15 中大
芝工大 12－7 明大
教大 9－6 慶大
法大 15－14 早大

（二部）

防衛大 12－10 東大
立大 15－9 学芸大
順天堂大 14－1 武蔵工大
茨城大 不戦勝 千葉大

【第五日目から】第一試合、中大は五日目にしてその本領を発揮した感じであった。しかし日体大は後半風を利した攻撃で加点し、延長に持込み、延長後はペースを握った。法大が早大を破ったのは実に久しぶり。昭和31年の秋東京大学のリーグの時一度破っているが関東リーグでは実に昭和26年春以来である。法大のFWのシャープさが目立った。

ハーフタイムのひととき、芝工大応援団の熱援ぶり

▽第六日（十一月四日）

（一部）

芝工大 19－11 中大
明大 13－10 日体大
早大 9－4 慶大
教大 26－22 法大

（二部）

立　　大 17—10 東　　大
茨 城 大 19—5 武蔵工大
順天堂大 不戦勝 千 葉 大
防 衛 大 11—6 学 芸 大

【第六日目から】 中大は勝味の遅い欠点をさらけ出して、前半一方的に芝工大に押しまくられた。明日戦は、日体大が明大のペースに巻き込まれてしまい、珍しくも拙戦をして敗れた。明大の緩急戦法は戦前から判っていただけに、日体大の試合ぶりは肯けなかった。早慶戦はラフプレーの連続で二流試合。教法戦もラフプレーが多かったが豪放味のある試合で法大は前半のリードを活かせなかったのが敗因。二部では立大が順調に勝ち続けた。

▽第七日（十一月六日）

法　　大 17—15 慶　　大
早　　大 16—14 教　　大
中　　大 12—7 明　　大
芝 工 大 20—11 日 体 大

【芝工大】			【日体大】		
福	本	GK	福		田
尾	藤	FB	蓮		井
村	上		久	保	田
勝	倉	HB	青	木	栄
田	口		宇	田	川
武	井		越		前
佐	藤	FW	青	木	義
北	村			林	
山	田		北		山
金	山		栗		山
塩	川		井		上
		交代	川		上
37		ST	29		

（二部）

武蔵工大 不戦勝 千 葉 大
順天堂大 21—10 茨 城 大
学 芸 大 10—9 東　　大
立　　大 14—12 防 衛 大

【第七日目から】 各校とも最終戦とあって何れも好試合。不振の教大、慶大が攻守に張り切ったために第一、第二の試合も気の抜けぬ熱戦だった。優勝を賭けた芝日戦は、両チームとも秀れた脚力を利しての白熱戦を展開。芝工大は前半、向かい風のため速攻が鈍り勝ちだったが、CF山田が快調にシュートを決め常に優位に立っていた。日体大も追い風を利したロングシュートを多投し、LW井上、CF北山らのシュートが、芝工大GK福本の沈着なプレーに阻まれその上単調なシュートが多かったために思ったより効果がなかった。後半風下の芝工大は持前の速攻が活き、連続ゲットを決める鮮かな攻撃ぶりは日体大バックスにつけいるスキを与えずRW佐藤、LI金山CF山田がビシビシ好シュートを決め、20分には15—9と開いて大勢を決め、ここに七連勝、八度目の優勝を遂げるとともに、昨年七月以来の連勝街道は遂に45連勝と云う快記録にまで伸びた。なお、二部は最終カードで立大が、防大の後半の反撃を振り切って七勝し順当に優勝した。

関東学生秋季リーグ一部勝敗表

		芝	日	中	早	法	明	教	慶	勝	負	総得点	総失点
①	芝工大	＼	○	○	○	○	○	○	○	7	0	132	58
②	日体大	●	＼	○	○	○	●	○	○	5	2	121	83
③	中　大	●	●	＼	●	○	○	○	○	4	3	95	86
③	早　大	●	●	○	＼	●	○	○	○	4	3	88	95
⑤	法　大	●	●	●	○	＼	○	●	○	3	4	102	124
⑥	明　大	●	○	●	●	●	＼	●	○	2	5	83	88
⑥	教　大	●	●	●	●	●	○	＼	○	2	5	80	126
⑧	慶　大	●	●	●	●	●	○	●	＼	1	6	65	97

2部順位①立大7勝②順天堂5勝2敗②防衛大5勝2敗②学芸大5勝2敗⑤東大3勝4敗⑥茨城大

順天堂大、学芸大の進境で二部上位四校の角逐はなかなか見応えがあったのは喜ばしい。千葉大が最後まで姿を見せなかったのは、なんとしたことか。

▽入替戦（11月12日）

立大（一部）13—12慶大（二部）

この結果、立大が一部に昇格。なお慶大の二部は昭和三十一年春以来。

西軍、終盤に決勝点

東軍の四連覇ならずタイに

第十回学生選抜東西対抗は十一月二十三日午後一時から、西宮野球場特設グラウンドで、王座戦に先立ち行なわれた。主審狩野（日体体OB）スローオフ東軍

西日本学生選抜軍 16（8—9 8—5）14 東日本学生選抜軍

○…後半25分まで14—14と予断を許さなかったが、26分西軍は当り屋LW高村（関大）が見事なジャププシュートで15—14、28分30秒には14米投を得て勝利を握り、東軍の四連覇を阻むと共に対戦成績を五勝五敗のタイにこぎつけた。

○…スコアの上では一応シーソーゲームだったが、共に一位の関学、芝工大選手を除いての編成で、しかも寄せ集めの感はまぬがれず、個人プレーの多い、スピード感を欠いた試合だった。東軍RW恵谷（早大）と西軍の高村のシュート合戦が唯一の見所と云うのでは、オールスターゲームと云うにしてはお粗末すぎる。

▽両チーム出場メンバー

【東軍】▽監督、佐野和夫（教大出）▽GK福田（日体大）石垣（東北学院大）▽B 井（中大）久保田（主将、日体大）青木（日体大）佐藤（明大）・中野（教大）森川（中京大）▽FW 恵谷（早大）深美（教大）石井（中大）吉田（早大）井上（日体大）斎（東北学院大）羽上田（中京大）

【西軍】▽監督、小西（京学大出）▽GK 中（同大）田村（甲南大）▽B 岩村（関大）林（同大）中江（同大）神前（主将、同大）渡辺（関大）▽FW 山根（山口大）川野（京大）荘林（神大）松田（関大）今藤（同大）高村（関大）西本（神大）浅野（京大）

なおこの東西対抗戦は明年から一位を含め毎年九月中旬名古屋において開催される事が全日本学連会議で決定した。

関学も七連覇、24回目の優勝遂ぐ

……関西学生リーグ

関西学生秋のリーグ戦は十月十五日から西宮球場を中心にして一部八校、二部が七校参加して行なわれた。

▼一部▽第一日

関学 28－5 立命館大
関大 16－6 甲南大
同大 13－3 大府大
神大 14－5 京大

▽第二日

関学 16－5 甲南大
同大 22－12 神戸大
関大 22－9 大府大
京大 14－9 立命館大

▽第三日

甲南大 10－9 京大
関大 18－10 神大
同大 12－2 立命館大
関学 15－8 大府大

▽第四日

同大 甲南大
関大 立命館大
京大 大府大
関学 神大

▽第五日

関学 13－9 京大
同大 19－16 関大
神大 11－5 立命館大
大府大 7－6 甲南大

▽第六日

大府大 10－0 立命館大
神大 10－10 甲南大

▽第七日

甲南大 12－5 立命館大
神大 11－7 大府大
同大 13－9 京大
関学 12－10 関大

▽入替戦

立命館大 10－5 大市大

〔戦評〕優勝した関学は、リーグ戦前、苦戦が噂されたが、むしろ春より楽勝が多かった。これは春から秋への猛練習の成果と見てよいものだろう。しかし、そのスタッフからすれば、順当の勝利と云うことも出来、その点では予想通りの結着に終った。強いて苦戦を拾うと最終日の対関大戦と云うことになるが、しかしリードを許しながら後半に見せた自信のある攻撃ぶりはやはり、押しも押されもせぬ王者の貫録であり、春秋通算二十四度目、しかも、東の芝浦工大同よう七シーズン連続優勝と云う偉業は絶讃に価しよう。

個々では、FWの新人LW藤井(明石高)が長足の進境を見せ、CF市場の活躍もよかった。この二人の奮起で、RI日向がパッサーにまわることが出来、特にリード・オフ・マンとして巧技をふるえたことは関学FWの力をグンと厚味のあるものに成長させていた。LI宮地も安定したプレーを見せ、藤井とのコンビネーションは、左サイドをより強力なものにしていた。バックスは定評ある山淵、藤原の両FBとGK小河が安定したデイフエンスを見せ、このトリオの強力さが、安部、富川、村田と云うHB陣のその攻撃力をフルに発揮させる大きな役割を演じていたのは見逃せない。村田にしろ富川にしろ〃六人目のFW〃としてどちらかと云えば攻撃型のHBだけに、最終防禦線の強さは大きい。関学に残された課題は、と云うより、東の芝浦工大と比べた時（学生界を語る時、必然的にその一点に関心が集中するのは仕方がないことだろう）ラッシュ攻法に今一歩の力不足を感じさせる点だろう。芝浦工大の強さがそのFW力にあることは、今さら他言を要さないが、特にその波状的な連続攻撃が大きな特長であり推進力である。その点、関学は、伝統的な遅攻のニオイが、未だ幾分残されているようでラッシュ攻法さえ会得すれば、遅攻の妙にかけて定評があるだけに、本格的な速、遅攻を使い分ける唯一のチームに飛躍しよう。

二位になった同大は、相変らず出来不出来の差が大きく、期待された対関学戦も前半一方的に差を開かれて敗れた。一試合の間でも好不調の波があり、特に関大戦では前半9－3と離しながら、後半追いつかれるなど結局、延長で勝つには勝ったが、不安定な試合ぶりを見せている。その顔触れは、関学に劣らぬもので、神前を中心としたバックス、今藤、中江、植野、石橋らのFWは特級品であり今春の前哨トーナメントで優勝したのも、決してフロックではないハズである。技術的な問題より、同大の課題は内面（精神）的なものなのではなかろうか。

三位の関大は、豪快なプレーを見せる反面、試合運びが拙く、チームプレーに未だしの感を残したこれは、やはりLW高村への依存度が高すぎるからで、かと云って、

高村の突進力を上手く活かしていたかと云うとそうでもなく、江尻、松田、寺田らのプレーまで生きていないケースが多かった。しかしチーム全体に粘りが出て来たのは関大にとって大きな進歩であり、春の二位から一歩退いたと云って決して悲観するものではないだろう。バックスもＧＫ金原、ＬＨ渡辺ら好選手を配して気力のあるプレーを見せていた。神大の四位は天野、花林、西本らのＦＷの健斗による所が大きいが、特に第一戦で京大を食い、第二戦で同大を前半リードしたあたり、その序盤での奮戦は、いつも、大差のつく試合の多いリーグ前半を活気あるものにしていたのは賞してよい。ＦＷ天野ＦＢ立花の卒業は痛いが、来シーズンは更に健斗が期待出来る。ただ、いかにも試合ぶりがおとなしい。よい意味での荒さが望まれるところだ。

春四位の京大の不振は、やや意外だったが、夏頃からチーム力が下降しはじめ、せっかく川野、浅野、酒井と云った好ＦＷを持ちながら、緒戦でつまづいてしまい甲南に敗れたのが大きかった。ＧＫ本田の不精彩も計算はずれだったろう。わずかに、対関大戦に奮起を示したが、前半の取こぼしが崇ってＢクラスに落ちてしまった。倦士重来を期してやまない。五位になった甲南大は二勝乍ら上出来だった。これと云った選手はいないが、東西対抗に選ばれたＧＫ田村やＲＷ小倉など若手がよく働き、京大を破り、神大と分けたあたりはなかなかだ。ただラフプレーが多いのはいただけない。

大府大は実力的には他チームとかなり差が見られたが、甲南、立命を破り、元気なプレーを始終見せていた。卒業生も少いし、成長が期待出来よう。春に続いてテールエンドとなった立命大は、相変らず不振の沼からはい出せない。練習不足が大きいが、しかし、若手で固めたメンバーでもあり、奮起を待ちたいところである。二部では、市大が堅実に勝ち抜いたが入替戦では立命に10－5で敗れてしまった。一、二部のリーグ内容の差と云ってしまえばそれまでだが、関西リーグの二部校は審判やグラウンドなど、関東リーグのそれと比べると、かなり冷遇のようで二部リーグの育成について考えを改めなければいけないのではなかろうか。

なお、今シーズンから、秋の全日本学生王座の西日本代表権を秋の関西リーグの優勝校が自動的に得ると云う方法を改善して、西日本学連（中、四国地区）の代表校を争覇することになった。

当分の間は、実力的に大差がつこうが、西日本学生ハンドボール界の盟主として関西学連が、西日本地方学生界の発展に寄与するとは、意義のあることで結構なことだ。

関西学生秋季リーグ一部勝敗表

		学	同	関	神	甲	京	府	立	勝	負	分
①	関学		○	○	○	○	○	○	○	7	0	0
②	同大	●		○	○	○	○	○	○	6	1	0
③	関大	●	●		○	○	○	○	○	5	2	0
④	神大	●	●	●		△	○	○	○	3	3	1
⑤	甲南大	●	●	●	△		○	●	○	2	4	1
⑥	京大	●	●	●	●	●		○	○	2	5	0
⑦	大府大	●	●	●	●	○	●		○	2	5	0
⑧	立命大	●	●	●	●	●	●	●		0	7	0

（２部順立）①大市大６戦６勝②阪大４勝２敗②逃山学院大４勝２敗④大学大３勝３敗④大歯大３勝３敗⑥大工大１勝５敗⑦大経大０勝６敗

関学24回優勝の足跡

昭22秋
昭23春・秋
昭24春・秋
昭25春・秋
昭26春・秋
昭27春・秋
昭28春・秋
昭29秋
昭30秋
昭31春・秋
昭32秋
昭33春・秋
昭34春・秋
昭35春・秋

関東学連への提案

関東学連は、今季前、一部八校、二部八校の現行に、来春千葉工大が参加のため、来春から六、六、五の三部制を布くと発表したが、シーズンが終ってみると、再び現行維持に変ったようである。何故、一度決めたものを覆えしたか。関東学連に残る〃不思議な考え〃がそうさせたのだろうが、それについては後日稿を改めるとしてとりあえず、関東学連の今後の編成について私見をかかげよう。結論から云うと一部六校、二部十一校とする。一部六校は常識的なリーグ戦をやる。二部十一校はＡ、Ｂブロックに分け、Ａには前季の一、三、五七、九、十一位、Ｂには前季の二、四、六、八、十位が加はり、それぞれリーグ戦をする。そしてその結果Ａ、Ｂの同位同士が対戦して一位同士の勝者を二部一位とすればよい。現状ではＡの六位だけ端数になるからＡＢの五位と三者で交戦すればよいだろう。二部にも一校増えれば問題はなくなる。試合数をトータルしてみると一部が六校総当りで全十五試合。二部がＡグループ十五試合、Ｂグループ十試合、Ａ、Ｂの順位戦が六試合（当分の間は八試合）となり合計四十六試合（当分の間は四十八試合）となる。現行一、二部八校制の場合、一、二部合計五十六試合より、八試合少くなり、特に一部校の日程編成はコンディションを考慮しても充分組んで行ける。尚、ちなみに、一部六、二部六、三部五とした場合は全試合数は四十で日程編成は一番これがラクであり、内容的な面からも、三部制は熟慮されてよい問題である。

（杉山茂）

第四回全学生日程決まる

全日本学生ハンドボール連盟（理事長中沢重夫、委員長三谷明）総会は、十一月十一日愛知スポーツ会館で関西、関東、東北、北海道各学連の代表が出席して開かれ、主に次年度の全日本学生、同王座の開催期日について協議した。なお、席上、前田関西代表から来年の第四回全日本学生選手権の日程が七月二日から六日までの五日間、西宮で開かれることに内定したと発表された。

原稿募集

課題＝雑誌「ハンドボール」に望むもの
内容＝本誌についての注文、批判その他
字数＝千五百字以内（用紙自由）
〆切＝昭和三十六年一月十六日迄当方着
宛先＝東京都千代田区神田駿河台四の六岸体育館内日本ハンドボール協会編集部

東海は中京大が初制覇
圧倒の攻守、三タイトルを独占

秋の東海学生選手権（第八回）は、十月二十九、三十、十一月四日の三日間、三重県三重大球技場（四日のみ名工大球技場）で東海地方の九大学が参加して行なわれた。

▽一部
名　大　12―2　静岡大
名工大　10―6　愛知学芸大
中京大　16―9　名　大
名工大　15―5　静岡大
中京大　24―2　愛知学芸大
（以上、十月二十九日）
名工大　4―3　名　大
静岡大　不戦勝　愛知学芸大
中京大　20―2　静岡大
名　大　不戦勝　愛知学芸大
（以上　十月三十日）
中京大　21―6　名工大

○……優勝戦となった中京大対名工大戦（十一月四日）は中京大が圧倒的に強く勝負は問題にならなかった。名工大は開始10分2―4としたまでが試合でその後は羽上田、伊藤（精）らを中心とする中京大ＦＷに走りまくられ点差を一方的に開かれた。しかし勝った中京大も個人プレーが相変らず多く個々の実力の高さに比べてチームプレーに未熟さを残しているのは一考を要しよう。他校の実力が低く、個人の突進力だけで容易に得点出来ることが、中京大にとってはマイナスになっているようだ。

○……敗れた名工大は、攻守にプレーが若く個々のキープ力も乏しくては大敗もしかたなかった。ただ最後まで試合を捨てぬ気力だけは買いたい。三位以下では、やはり名大がまとまりを見せており、雨中戦で名工大に惜敗したが、むしろ力では名工大をしのぐものを持っていたようだ。なお昨秋このリーグに加盟した中京大にとって一部での優勝は、今季が始めてだが、この結果、今年になって、一月の東海学生室内、五月の東海学生春季選手権に続き、東海学生界の三タイトルを独占したことになる。（S）

【名工大】
川竹池口尾池中出藤島田本村
谷
長佐芝谷長堀田西近中牧松中
GK　FB　HB　FW　交代
地原川山田橋藤場田演精田下
戸　上藤藤
木石森神山高近馬羽伊伊戸平
【中京大】

一部勝敗表

		中	工	名	静	愛	勝	敗
①	中京大	—	○	○	○	○	4	0
②	名工大	●	—	○	○	○	3	1
③	名　大	●	●	—	○	○	2	2
④	静岡大	●	●	●	—	○	1	3
⑤	愛学大	●	●	●	●	—	0	4

▽二部
滋賀大　15―8　三重大
岐阜大　18―3　三重県大
岐阜大　17―6　三重大
岐阜大　14―9　滋賀大
三重大　不戦勝　三重県大
滋賀大　不戦勝　三重県大
（順位）①岐阜大3戦3勝　②滋賀大2勝1敗　③三重大1勝2敗　④三重県立大4勝4敗

▽入替戦
岐阜大（二部）　12―10　愛知学芸大（一部）

≪訂　正≫

本誌前号、次の個所は誤りにつき訂正します。
▽4頁、ルーマニアチームが一九五七年度世界選手権準優勝とあるのは一九五九年度の誤り
▽20頁　執筆者村田弘氏が大会審判長とあるのは大会審判員の誤り
▽27頁　学生リーグ秋季順位予想アンケートのうち関西渡辺一已氏の項は編集上の手違いにより誤って掲載いたしました為全項を取消します。渡辺氏に紙上から深くお詫び申し上げます。（編集部）

学連の基盤ようやく固まる

今シーズンの学生界を顧りみて

いただけない〝芝浦、関学の独走〟

十二月二十三日、西宮で行なわれた第四回全日本学生王座と第十回学生選抜東西対抗をもって今年度の学生界はとどこおりなく全日程を終了した。

今シーズンの学生界は、六月のルーマニアチームの来日で、現役学生を中心とした東西の五大学が単独国際試合を開催し得たことが刺激となって、活発な動きが見られ、また、全日本学生連盟も、ようやく基盤が固まり、発展期への第一歩を踏み出しつつあることも喜ばしい。全日本学生、王座、東西対抗などを自主運営し成功をおさめたり加盟が五十をはるかに越すまでに成長したのは大収穫であった。技術的には、相変らず東の芝浦工大、日体大、西の関学、同大らが他校を一歩引放しており、特に芝浦工大は昨年に続き全日本学生（三連覇）全日本綜合（連覇）と云う二つの全国タイトルを獲得したのは驚異的であり、一方、関学も春、秋のリーグ戦を勝抜いて通算二十四回と云う優勝記録を樹てたことも敬服の他はない。

しかし。この東西両豪の快調には、もち論、絶讃の辞を送ってやまぬものがあるが、最近七シーズン、三年半に亘って他校が一度もこの二校の堅実を突き破れないのは、あまりにも情ないと云う見方も生まれて来よう。他校の対芝浦研究、対関学研究は盛んではあるが、しかし芝浦を破り、関学を破るにはもはや芝浦以上、関学以上の猛練習を積む以外に道がないことは明らかなことである。その点で、他校が今シーズン一年を通じて充分の努力を払ったかどうか。否と答えたら、それは暴言になるだろうか。関西において、同大が今春の前哨トーナメントで関学を降したのは記憶に新しい。しかし、同大はリーグでは関学に遂にストップをかけることが出来なかった。何故か。関学がこの敗戦に奮起して猛練習に励んだからである。前哨トーナメントの首位を得られなかったことだけで関学はこのような奮起を見せ、秋には見違えるばかりの進歩を遂げた。

七連覇と云うヨソサマの偉業をただ見送っている他校には、残念乍らこうした気迫が足りない。流行語で云えば、「根性」の欠じょである。努力なくしては常勝校打倒は永久に空念仏に終るだろう。来年こそ、芝浦を破り、関学を破るチームが出て来て欲しい。

反則がやたらと多かったのも今年の特長（?）だ。明らかに斗志と粗暴の混同である。トップゾーンたる学生界がこれではいけない。責任の一端は審判員、指導者にもあろう。しかし、何より選手自身の反省こそ必要であり、ハンドボール選手である前に学生スポーツマンであることを自覚しなおす必要があろう。

地方学生界では中京大（東海）東北学院大（東北、北海道）山口大（西日本）などが台頭し中央勢と手合せし実力的にはまだまだ格段の差があったと云うものの、地方学連の組織も強固になりつつあり、近い将来、全日本学生選手権を地方学連の主管で開ける見通しがついたのは、前途を明るくするものであろう。

最後に現在の学連の運営はほとんど学生の手で運営されている。それはそれで実に立派なことであり、結構なことだがしかし反面それはOBの不協力と云うことが云えないでもない。

学連を育てるものは、ある意味ではOBの熱意である。各大学のOBが母校の利益のみにこだわらず、大乗的な立場で積極的に学連に協力したら、より充実した組織となり強いては学生界の繁栄につながろう。

また、そろそろ学生界にも〝インドア〟のオフイシャルな大会が企画されてもよい時期であろう。

（駒沢球治郎）

ルーマニアチームの科学的分析

雑誌「オリンピア」から

日本のハンドボール界の今後に大きな示唆

ルーマニアチームが帰ったあとで、日本のハンドボール界は直ちに来るべき東京オリンピックへの強化に乗り出した。そして、そのスタートに際してまたとない貴重な研究結果が発表された。日本体育協会東京オリンピック選手強化対策本部発行の雑誌「オリンピア」第三号（十一月一日発行）に載った『日本・ルーマニアハンドボール選手の身体計測について』と云う研究発表がそれである。そこで本誌では、発行者の御厚意により、その要約を中心にした特集をここに収めた。

〃体重〃に格段の差

この調査は横堀（東邦大教授）白井（昭和医大教授）石河（東大助教授）高沢（横浜市大助教授）北村（順天堂大教授）以上五人の専門教授により七月四、五の両日ルーマニアチーム十六名、日体大十五名、芝浦工大十四名の計四十五名に対して行なわれた〃身体計測〃を北村利夫順天堂大教授が総括して発表したもので、本誌前号荒川清美氏の調査発表と対照しながら一読されると興味は更に加わろう。

まず、「体格について」（横堀教授）だが、ルーマニア選手は平均座高、平均前胴長が、日本選手（芝工大、日体大を指す。以下同）に比して短く、全頭高（頭頂から下顎中央先端までの距離）も小さい。また、平均胸囲、頭の最大頂、最大巾も日本選手より著しく大きいと云うことはない。

しかし、体重となると、日本選手の一二〇パーセントと云うことになり、大きな差が表はれ、具体的に云うとルーマニア選手の平均体重が七七・三Kなのに対し、日体大六三・八K、芝浦工大六四・四Kである。

また、両国選手が何頭身かと云う調査によると、ルーマニア選手は最大九・五二頭身から最小七・八二頭身、平均八・四九頭身でこれに対して日本選手は最大八・〇三頭、最小七・〇六頭、平均七・五四頭身と云う結果が出ている。ルーマニア選手は、身長の大に比して、比座高が日本人よりはるかに大きい。大きなストライドで、日本のバックスがふり廻されていたのもうなずけるわけである。

ル軍持久力の〃秘密〃

今夏の国際試合のあと、やかましく云はれたのが「スタミナ」と云う問題である。

白井教授の「肺活量、背筋力、血液所見等について」の項から、この問題に触れてみることにしょう。

一般的にルーマニア選手は体格に比して肺活量、背筋力が大きい。これを各ポジションに比較してみると、FWではルーマニア選手が五四一四CC、日体大選手が四三九五CC、芝浦工大選手が四三三四CCと云う結果でルーマニア選手が差をつけている。これは持久力がすぐれていることを示し、また背筋力、握力も大である。これらは瞬発力の大きいことを示すことになろう。ルーマニア選手が全試合時間を殆ど同じ速度で走り抜いていたことや、ここぞと云う時の鮮やかな攻撃ぶりの〃秘密〃はこうした所にあるのであろう。

バックスについても、同じようなことが云えるが、特にルーマニア選手は筋力型で、肺活量、背筋が大きい。日本選手は背筋力、握力の劣った水泳選手のような体勢を示し「これは持続型に近い巾厚型でリズミカルな運動に適するが、瞬発力にやや劣ることを示している」ことになる。GKでは、ルーマニア選手の体勢はバスケットボール選手に向く持久型に、さらに筋力をつけたようなもので、肺活量が非常に大きく持久力がすぐれている。GKは日体大の方が芝浦工大よりもルーマニア選手に近い体勢であった。

さて、次に白井教授は血液所見についての項で日本選手のコンデイション調整に関して考慮の必要があるのではと云う疑問を投げかけているのでその一節をそのまま写しておこう。

「血液所見は日本選手のみについて計測したので、ルーマニア選手と比較することは出来ないが、日本チームの中では、血色素量でわずかに芝浦工大の方が秀れていた。日本チームの中に一般健康者の平均をかなり下回るようなものが二～三名ずつ見られたことはコンデイション調整の上からも考慮すべきことと思はれる」と云うのがそれである。科学的なトレーニングが云々され、また〃コンデイションと云うことがやかましく云はれている昨今、これは各チームの指導者にとって傾聴すべきものがあるようだ。

以上を綜合してみた時、やはりルーマニア選手との体格の型態的の差はどうしようもないものと云うことが出来る。本誌前号巻頭で、高島理事長が述べるように、体格の差を補うには、走りまわり、走り抜くことによってカバーせざるを得ないのだろうか。そして白井教授も「持久力、瞬発力は訓練によってこれを向上させることが可能であるので試合運びの上で今一歩の押しを要求できよう」と云うように、先天的な体格の差はある程度訓練（練習）によって向上させる可能性があると云う点に、日本のハンドボール界が国際舞台で活躍出来る道が残され、そして開けていると云うことが出来よう。〃体格の差は猛練習で〃と云うことである。

柔軟性に富む日本

さて、石河助教授のテーマは、「体力測定について」であった。これは色々な〃実験〃によって柔軟性、跳力などをテストしたもので、これまた興味深いデーターが並んでいる。例えば、「前屈柔軟度」（膝をのばしたまま上体を前屈し指先が足底の線より下にとどけば（一）達しない場合を（十）にして、測定を行うもので二回試行のうち、最大値を採る）では、（十）を示すものはルーマニア二十一パーセント、日本十四パーセントで、平均値でみると日本九・四三糎、ルーマニア三・〇七糎で、この結果からは日本チームの方が柔軟性に富むと云えよう。

ルーマニア戦後、盛んに「日本戦法」が云はれるが、ここらあたりに「日本戦法」のカギとなるべきものがあるのではないだろうか。ただ問題は、日本チームは、GK、FW、HBの順に柔軟性が大で、ルーマニアはFW、GK、バックスの順であったことと、ルーマニアはその差がそう変りなかったのに反し、日本チームはその差が、かなり大きいと云うことであろう。

次に「垂直跳」の結果を見よう。ルーマニアは全平均値五六・七三糎、日本は全平均値五三・八一糎と、ルーマニアの方が約三糎平均値が大であった。ただ、ここで刮目すべきは、芝浦工大の選手の最大値が六六・六糎とルーマニア選手の最大値六五・六をしのいでいたことで、全平均値でも芝浦工大は五五・七二糎と、ルーマニアの五六・七三糎に近い数字を見せていることである。

国内に於いて、芝浦工大が無敵の名を欲しいままにしている一つの〃裏付け〃でもあり興味深い。ポジション別には日本、ルーマニアともGK、HB、FWの順だった。

ルー軍をしのぐ芝浦工大

石河助教授は、さらに身体の敏捷性を表わす示標の一つとして、「サイド・ステップ」テストを行なっている。これは床に一米二十糎間隔に三本の平行線を引き、中央の線から始めて、出来るだけ早くサイド・ステップを行ない（常に両足で線をまたぐようにする）十秒間に行ないえたステップ数を記録するもので、日本の諸チームでも実験されてみたら面白い。結果は日本、ルーマニアともに十秒間十七回（詳しくは日本十七・〇ルーマニア十六・九）で差がない。石河助教授によれば、この値は先般来日したドイツ陸上チームやドイツアイスホッケーチームに比し多少すぐれた値だそうである。ポジション別には、日本、ルーマニアともにGKが最もよく、特にルーマニアチームのGKは平均十八・五回で非常に敏捷性に富んでいると云うことである。

なお、ここでも芝浦工大はその平均値においてルーマニアを僅少差ながらしのぎ、日体大より約一回多い値を示し、三チームの中で最も敏捷性の高いチームであることが立証された。芝浦工大がその最終戦において17対16と云う大熱戦を展開し得たのも、その気力もさることながら、実力的にも、立派に国際水準の上位を行くことが判ったわけである。

結局、運動能力と云う点から見れば柔軟性では日本、垂直跳びはルーマニア、サイドステップにおいてはほぼ等しい成績を示したことになる。特に、前に述べたように芝浦工大はルーマニアとほとんど等しい力を示し、ある面ではルーマニアをしのぐものさえ持っていたわけである。芝浦工大と云う一単独チームが、例え机上のデーターにせよ、国際最上位のチームに優るものを持っていたと云うことは、日本のハンドボール界の前途を非常に明るくするものであるし、同時に芝浦工大の優秀性を改めて認識させられるものであろう。

ヒケとらぬ日本チーム

このほか、北村教授による心電図、血圧などの調査があるが、残念ながら限られた紙数のため、これは後時にゆずりたい。

結論としてこうしてみると、日本のハンドボールチーム（界）と云うものが、決して外国チームに劣っていないことが判るし、東京オリンピックハンドボール強化専門委員に推せんされている荒川清美氏が、平常云っているように、「体格の差をいつまでも云っていては、絶対に外国チームに勝てない。科学的な裏づけによって体力や体格などの基本的な問題を充分解明して、それによって日本チームなりの試合運行を考案すべきだ」と云う意見が首肯されよう。ともあれ、こうした〃結果〃を見つけだしただけでも、ルーマニアチームの招へいは大きな意義があったと云えるだろう。

（文責・杉山）

ハンドボール選手の身体計測　（白井昭和医大教授）

	ルーマニア選手			日体大選手			芝浦工大選手			ルーマニア全選手	日体大全選手	芝浦工大全選手
ポジション	FW	B	GK	FW	B	GK	FW	B	GK	平均	平均	平均
年令（才）	24	25	28	20	21	21	21	21	22	24	20	21
身長（cm）	178.9	176.9	187.4	168.8	167.5	172.9	166.4	169.1	170.7	179.2	168.9	168.0
体重（kg）	74.4	80.2	81.0	62.3	63.9	69.3	63.1	66.2	64.2	77.6	63.8	64.4
胸囲（cm）	96.1	98.9	97.4	89.2	93.4	94.6	89.7	91.2	89.4	97.4	91.3	90.2
坐高（cm）	94.9	93.9	98.1	92.9	92.2	95.9	93.1	93.3	92.8	94.9	93.1	93.2
上腕囲（cm）伸	29.5	30.5	29.4	26.9	27.6	28.4	27.0	27.6	27.8	29.9	27.3	27.3
上腕囲（cm）屈	33.1	34.0	32.4	29.9	30.3	32.5	30.0	30.8	29.8	33.4	30.4	30.3
肺活量（cc）	5414	5590	6860	4395	4640	4960	4334	4508	2820	5677	4552	4466
背筋力（kg）	189.3	196.2	202.5	156.3	157.0	180.0	172.1	157.0	155.0	193.8	159.7	164.3
握力（kg）左	47.6	53.1	57.3	45.2	41.3	48.0	46.6	42.2	41.3	58.4	44.3	45.0
握力（kg）右	56.8	59.0	62.3	52.1	45.9	59.3	51.8	48.7	48.5	51.1	44.3	50.2
握力（kg）平均	52.2	56.2	59.8	48.6	43.6	53.7	50.0	45.5	44.9	54.8	47.7	47.6

（血液所見による結果表・省略）　雑誌〝オリンピア〟56頁より

地方だより

関東選手権大会
大崎電気の好調続く

第七回関東選手権大会は九月十七、十八の両日東京都駒沢ハンドボール場で関東八県（山梨を含む）四部門三十一チームを集めて行なわれた。

▽高校女子準決勝
水海道二（茨城） 8（5—4、3—2）6 熊谷商工（埼玉）
栃木女高（栃木） 8（4—2、4—3）5 桜水商（東京）

▽決勝
栃木女高 5（2—0、3—1）1 水海道二

▽高校男子対抗戦一回戦勝者 神代高（東京）富岡高（群馬）鎌倉学園（神奈川）水戸高（茨城）

▽同ベスト6決定上位戦
神代高 12—8 富岡高
水戸高 12—11 鎌倉学園

▽同中位戦
富岡高 9—6 栃木足利高
鎌倉学園 9—8 山梨塩山高

▽同下位戦
埼玉大宮高 15—7 千葉佐原一
塩山高 16—11 足利高

以上の結果、神代、水戸、富岡、鎌倉学園、大宮、塩山の六校がベスト6となった。

▽一般女子準決勝
梨窓ク（山梨） 6（3—2、3—2）4 全神奈川
日体大（東京） 7（5—1、0—4、0—1、2—0）6 全茨城

▽同決勝
日体大 9（6—1、3—1）2 梨窓ク

▽一般男子準決勝
桐生ク（群馬） 11（5—3、6—6）9 全神奈川
大崎電気（東京） 20（12—4、8—2）6 全茨城

▽同決勝
大崎電気 20（11—3、9—6）9 桐生ク

第十三回東北選手権大会
一般（男）全仙台 （女）涌谷OG

第十三回東北選手権大会は九月十、十一の両日、山形市で東北六県四部門十九チームを集めて行われた。

▽高校女子準決勝
和洋女高（秋田） 6（2—3、4—1）4 古川女高（宮城）
涌谷高（宮城） 13（5—5、8—2）7 花巻南高（岩手）

▽同決勝
涌谷高 19（14—2、5—2）4 和洋女高

この結果、涌谷高の十三連覇。

▽高校男子予選Aプール
安積高（福島） 16—10 仙台二高（宮城）
盛岡一高（岩手） 18—8 安積高
盛岡一高 18—5 仙台二高

▽同Bプール
山形東高（山形） 7—3 湯沢高（秋田）
湯沢高 11—4 青森高（青森）
山形東高 9—7 湯沢高

▽同決勝
盛岡一高 16（6—0、10—2）2 山形東高

▽一般女子決勝（参加二チーム）
涌谷高OG（宮城） 14（7—1、7—1）2 盛岡クラブ

▽一般男子準決勝
全仙台（宮城） 25（14—2、11—4）6 湯沢クラブ（秋田）
白亜クラブ（岩手） 21（6—5、15—10）15 青森クラブ（青森）

▽同決勝
全仙台 19（7—6、12—12）18 白亜ク

東海は愛知勢独占

第七回東海選手権は九月十七、十八の両日静岡県富士市で東海四県四部門二十三チームを集めて行なわれた。

▽高校女子準決勝
半田高（愛知） 17（8—5、9—0）5 大垣南高（岐阜）
清水商（静岡） 8（4—1、4—1）2 稲沢高（愛知）

▽同三位決定戦
大垣南高 8—4 稲沢高

▽同決勝
半田高 9（5—3、4—1）4 清水商

▽高校男子準決勝
桜台高（愛知） 12（7—5、5—1）6 清水東高（静岡）
中京商（愛知） 10（5—2、5—2）4 清水商（静岡）

▽同三位決定戦
清水商 12—7 清水東高

▽同決勝
桜台高 9（3—2、2—3、4—3）8 中京商

昨年来、高校公式戦で不敗を続け、全日本高校二連覇の中京商にとって、この敗戦は二年ぶりのものだった。桜台高の勝因はGK渡辺を中心としたディフェンス陣の健斗にあり、高校界最高を征く二校の激突らしい好試合だった。

▽一般女子リーグ
愛知紡績（愛知） 38—2 白梅クラブ（岐阜）

愛知紡績のあげた38点は、女子が七人制に統一されてから、おそらく公式大会における全国最高得点かと思われる。

静岡城北クラブ（静岡） 13—1 白梅クラブ
愛知紡績 14—2 静岡城北クラブ

（順位）①愛知紡績2勝 ②静岡城北ク1勝1敗③岐阜白梅ク2敗

▽一般男子準決勝
桜丘会（愛知） 15（7—4、8—7）11 清水商ク（静岡）
鵜森ク（三重） 17（8—9、9—7）16 全岐阜大（岐阜）

▽同三位決定戦
清水商ク 18—9 全岐阜大

▽同決勝
桜丘会 20（8—4、12—0）4 鵜森ク

近畿大学綜体に神戸大優勝

第七回近畿地区大学綜合体育大会ハンドボール競技は九月四、五日の両日皷湧高球技場で行なわれ、準決勝で関西春の四位校京大を破った神大が決勝で甲南を降し優勝した。

▽準決勝
神大 11—9 京大
甲南大 9—5 大阪学芸大

▽決勝
神大 10—8 甲南大

早大、関学・慶応を連破
二つの伝統定期戦

第18回早慶定期戦は九月九日午後七時三十分から東京の国立競技場でナイトゲームとして行なわれた。この定期戦がナイターで行なわれるようになって三年目、観衆も五千を数え、盛況だった。

▽第二回高校戦（早高学院2勝）
早大学院 17—6 慶応高

▽第八回OB戦（三田ク4勝1敗2分）
三田ク（慶） 18—11 稲門ク（早）

▽現役戦（早大3勝、慶大5勝）
早大 17—12 慶大

伝統を誇る第15回早大対関学定期戦は九月十八日、東京の小石川グラウンドでOB戦に引きつづき

【慶大】
GK 大塚兄
FB 桜井 橋本
HB 岸川 高久保 須藤
FW 諏訪 辻 木本 小野田 大河内
交代 田中 白壁

【早大】
GK 久保
FB 竹村 西沢
HB 北沢 森岡 荒木
FW 恵谷 平塚 吉田 中尾 長沢
交代 塩坂 山口
（主審荒川・日体出）

行われた。早大は、関西NO1の関学に対して一歩も引かずRW恵谷が10点を叩き出す活躍で、追いすがる関学を振り切り、昭和28年以来七シーズンぶりの勝利をあげた。

▽OB親善試合
関学ク 13−13 稲門ク
引分け

▽現役戦（早大4勝、関学11勝）
早　大 13−12 関　学

【早大】
GK 久保
FB 西沢 山口
HB 竹村 北沢 荒木
FW 恵谷 平塚 吉田 森岡 長沢
交代 塩坂 渋谷

【関学】
GK 小河
FB 藤原 山淵
HB 中浦 安部 村田
FW 山田 日向 十倉 宮地 藤井
交代 香山 服部
（主審荒川・日体出）

新人戦でも桜台勝つ

十一月十二日名古屋で行われた愛知県高校新人大会名古屋予選の決勝戦で顔を合わせた中京商と桜台高は15−9（前半桜台8−3）で桜台高校が勝った。

岐阜県ハンドボール選手権大会は十一月二十七日岐阜北高グラウンドに一般、大学、高校男女十六チームが参加して行なわれたが男子は岐阜大、女子は大垣が優勝を飾った。

話題のチーム④

山形東高の巻

この学校には正式のハンド・ボール部というものはない。山形県の総合体育大会の参加種目をそろえるために、毎年大会一カ月前の五月ごろ有志が集ってチームを編成する。現在の部員は十一人のレギュラーに補欠が二人でギリギリいっぱい。正式の部ではないから練習も、部員負担がかかることをさけ〝総合体育大会〟と〝国体予選〟の前に一カ月ほどやるだけ。

だからこの〝弱体チーム〟が国体の東北代表になったとき、一番驚いたのは選手自身だった。県内には寒河江（さがえ）高校しかなく、（国体のあとに東根（ひがしね）高校にもチームが出来た）東北予選でもクジ運に恵まれたのが幸いした。

速成チームのため、個人プレーになりやすい欠点がある。熊本国体に出かけた峰屋教諭は〝フォワードが弱く攻撃力にとぼしいが、バックスは他チームと比べてヒケを取らなかった〟と評している。十一人のレギュラーが全部三年生で二年生は二人しかいない。主将の原田君は〝国体出場で、学校も見直してくれたようだ。来年はもっと部員が集まるでしょう〟と後輩の活躍に期待している。

後輩の活躍を待つ原田主将

新三菱(男子)、愛知紡(女子)優勝

初の実業団対抗　名古屋で「愛知選手権」開く

全国初の実業団対抗大会として注目を集めた第一回愛知県実業団ハンドボール選手権大会（七人制）は七月廿四日、中部日本新聞社後援で、快晴の半田市愛知紡績グラウンドで行なわれた。

▽男子決勝（主審　林藤吉氏（日体OB））

新三菱重工 12（4−2, 8−4）6 東洋レーヨン愛知

東レは年令的に若さを誇るチームだが、かえってこれがわざわいして、キャリアに一日の長ある新三菱に破れた。前半東レの果敢なアタックは新三菱のFWをよくおさえ、後半開始し1分には七米投で3−4と迫るなど健斗したが、そのあと徒らにロングシュートを放ってかえって相手に攻撃機会を与えたのは拙かった。新三菱は出足こそ鋭さがなかったが、後半ようやくパスワークが整い、後半20分10−4と開いて大勢を決めた。

▽女子決勝

愛知紡績 17（8−1, 9−2）3 東洋レーヨン愛知

チャンピオン愛知紡の前には、気鋭の東レも歯が立たなかった。しかし、東レは原監督以下、全員最後まで試合を捨てず好感の持てる試合ぶりだった。愛知紡は、要所をよくしめ、堂に入ったセット・プレーは、チームプレー未だしの東レとそのままキャリアの差を表わしていた。

東レは帰陣の遅さが、愛紡の攻撃をさらに楽にさせていたあたり今後に残された課題であろう。（O）

明大、慶大に四連勝

第十四回慶大対明大ハンドボール定期戦は十一月二十日午後一時から慶大日吉グラウンドで行なわれ、OB戦は三田ク、現役戦は明大が秋季リーグ戦の雪じょくを遂げると共に、この定期戦に四連勝、対戦成績は明大の八勝六敗となった。

▽OB戦　三田ク15−13駿台ク

▽現役戦

明　大 14（8−4, 6−1）5 慶　大

×　×　×　×

×　×　×　×

質問欄

問　一九四〇年、東京で開かれる予定だった第十二回オリンピック大会の時は、ハンドボールは開催種目に入っていましたか。（福岡・T生・高校生）

答　加えられていました。第十二回大会が東京で開催が決まった頃は、我国ではスポーツとしてのハンドボールが芽生えてはいませんでしたが、当時の体協関係者の意見として「将来、普及向上の可能性ある競技」と云うことで加えられ陸連関係者で研究と準備が進められました。昭和十三年、協会の発足と共に、国内におけるオリンピック対策はさらに具体化し、オリンピック候補選手の選衡も行われたほどでした。

問　現在、行なわれている東西対抗は学生部門だけでしょうか。一般部門その他の復活は考えられますか。（神奈川、神谷　弘）

答　東西対抗は現在では学生（男子）の部のみしか行われておりません。その他の部門の復活は今のところ具体的な動きがないようです。〃室内〃の東西対抗ぐらいは考えられてよい時期でしょう。

問　来年三月、ドイツで世界男子七人制選手権大会が開かれるそうですが、こうした場合、主管者は東西ドイツが合体して、その任にあたるのでしょうか。（兵庫・蔵前善三郎）

答　お問合せの大会は、ドイツ連邦共和国（西独）ハンドボール連盟が主催することになっています。なお、余談になりますが、オリンピック東京大会のハンドボール競技には、ドイツは東、西別とに参加の意志が表明されています。

問　ルールの中で「ボールはあまりかたく空気がつめてあってはいけない」と云う規定があるそうですが、本当でしょうか。理由は？（東京・一中学生）

答　ルール第二条第一項に成文化されています。今年競技規則書（協会発行）七頁にはこの項の注釈として「あまり空気を詰めてはいけないと云うのは危険防止のためであってあまり堅すぎて危険にならないようにとの意味で、指で押せば窪んだり、バウンドも満足にしないような軟かさは適当でない」と示されています。

お詫び　先号当欄「昨年度世界選手権参加予定日本FW」の解答中、「近藤金博（芝工大OB）」が脱落していました。

質問かんげい

読者兄姉の質問を歓迎します。ハンドボールに関することなら技術問題、記録なんでも結構です。宛先は住所、氏名（匿名可）、年令明記の上、ハガキで東京都千代田区神田駿河台、日本ハンドボール協会内機関誌編集部質疑応答係まで。

投書欄

五輪開催に全国的運動を

東京オリンピックでのハンドボール開催は、貴誌の解説によると、はなはだ不安を感じさせるものがあり、また一般スポーツ紙などでは、はっきり削減予想種目としてハンドボールの名を明記しておりますが、我々ハンドボールに関心と愛着を持っている者にとってこれほど残念な話はありません。聞けば、その採否は来年五月の国際オリンピック委員会で決まるそうですが、この期にあたって、残る半年間に全国のハンドボール競技者、関係者一丸となった全国的運動を展開すべきであると考え、ハンドボール界が、どれだけオリンピック種目としての採用を熱望しているかを、表面的に示す必要が絶対あると考えます。例えば、署名運動をやるとか、体協関係者を交えた公聴会をやるとかして、どうしても開催実現に力を注ぐべき最終段階に突入していると思います。トトカルチョ形式のスポーツくじが世論に押されて実現が難しい現状では、国内の動きとしても経費を安上りにするため、当然、種目の制限が考えられて来ましょう。そうなると、残念ですが、ハンドボールは過去のオリンピック大会で一度しか行なわれていないと云う不利が祟って来ます。どうか、全国ハンドボール競技者の皆さん、我々全国の競技者の力で東京オリンピックにハンドボールを加えようではありませんか。協会首脳陣の具体的教示を切望します。

（大阪・関心寄世男）

国体切手にハンドボールを

第十五回国体が熊本で開かれましたがその記念切手にまたしても〃ハンドボール〃が採りあげられていないのには失望しました。ほとんどの競技がすでに国体記念切手の図案になっていると云うのに〃ハンドボール〃が、十五回を数える大会を通じて未だ一度も使われていない不合理は、なにか特別の理由でもあるのでしょうか。ハンドボールは日本ではマイナー・スポーツだとよく云われますが、こんな所にも影響するのでしょうか。協会関係者は、ハンドボールのPRと云うことに、もう少し積極的であるべきではないかと考えます。

【兵庫・石倉貞雄・高校生】

全日体の決勝欠場は二回

貴紙三号十三頁前段に掲載されておりました〃全日本総合観戦記〃中に全日体大が全日本総合の決勝戦に出場しないのは大会始まって以来とありますが、実は昭和三十年度、明石で行なわれました第七回大会にて、全日体大は、準決で教育大Aに10－5で破れ決勝戦は西日本日体OB対教育大で行ない、西日本日体OBが優勝した記録があり、全日体大が決勝戦に進出出来ないのは二度目ではないかと思いますが如何でしょうか。

【福岡・小袋是郎】

お詫び　御指摘のとおりでした（係）

今月の問題

内容的充実へ脱皮を！

――七・八月に集中する全国大会――

大会運営に再検討の時期

今年のフィールドシーズンも間もなく閉幕である。今年は、六月にルーマニアチームの来日などあり、話題豊富なシーズンだったが斯界の発展とともに全国大会や地方ブロックの大会が必然的に増えそうした大会の運営やスケジュール（日程）について再検討すべきだと云う声が上って来たのは注目すべきであろう。この問題の最大点は、現行では七、八月に全国タイトルを懸けた大会が集中しすぎると云うことで、大会開催を各月に分散させるべきだと云う要望が強い。

因みに、今年の例では七、八月の二ケ月間に全日本学生（東京）全日本高校（岡山）、全日本綜合（秋田）全日本教職員（東京）と四つの大会が行われ、しかも、各地方ブロックの国体予選を兼ねた選手権大会がほとんど九月上旬に行われていると云う実情である。

愛知県協会常任理事宇津野年一氏は「たしかに、七・八月に全国大会が集中するのはまずい。日程がつまりすぎていて参加が困難だと云うのでは斯界にとってもマイナスだろう」と云う。しかし協会側は「全日本学生、全日本高校、全日本教職員の三つは性質上、暑中休暇を利用しなければならないから動かせない」と云い、学連でも「全日本学生は初夏以外にない。秋は王座戦もあるし時日がない」と云う意見が固い。となると集中はまずい。しかし三大会は動かせないことになり、考慮の余地があるのは全日本綜合だけと云うことになる。昭和二十九年の第六回大会が十一月平塚で行われた以外、ここ数年この大会は八月開催が慣例化しているが特別な理由と云えば、教職員の多い公認審判員の動員が八月の方が楽だからであろう。しかし「フィールドシーズンの総まとめの意味でも十一月の方がよいのではないか」と云う声もあり、この点に研究の余地が残されている。

問題は十一月に変えると、国体（十月）と近づきすぎてしまうことになり、十一月の末までフィールドのメエインベントを伸ばすとインドアの鍛錬期間が短かくなると云う新しい問題も起きてくることだ。なかなか、一朝一夕によい案が生れにくい問題である。

ところで、全国大会の運営に対する注文はその開（会）ばかりではない。大阪協会理事長の馬場太郎氏は「全日本綜合は当分（とりあえず東京オリンピックの前年頃まで）東京で開催すべきではないか」と云う意見を持っている。担当記者の間でも、「最近の全日本は参加チームが地域的に偏向しすぎる」と云う批判があり、確かに地方持廻りの開催だと参加チームが北に寄りすぎたり、南に寄りすぎたりして、全国各地から平均して強チームが参集するとは云えない。その原因は、前述の大会日程の集中、そのオープン制度（予選なしの自由参加）に負うところが大きい。特にオープン制度は、参加のワクがないため自由に参加出来る利点はあるが、必らず出なければと云う〝魅力〟や〝権威〟がうすいのも否めない。だから、協会某氏が云うように「開催場所が何処であろうと出たいチームは出るし、出ないチームは近くても見送ろう」と云うことになる。そうした弊を少しでも無くすために、予選、推薦制度の検討と、中央開催（東京、関西、東海）の問題は一考されてよいものがあるようだ。また、グラウンドの問題も地方会場では切離なせない。地方にはよいグラウンドが少ないと云うことも、中央チームの地方敬遠の一因ではなかろうか。話はとぶがグラウンドの問題に関連して宇津野氏は「八月開催の大会では競技場を例えば高校男子では百米×六十米を理想と考える」と云っている。

ともあれ、これまでのハンドボール界は、競技の普及を主目的にしたため、ともすれば大会の運営もそうしたことが第一義的に考えられて来たが、今後は、そうした面よりも、むしろ内容的な充実が優先されて然るべきであり、また必ずやそうならなくてはなるまい。内容的な充実とは大会の運営、技術問題ばかりではなく、大会役員の構成、審判団の充実等をも含めた広義なものなのである。

ニュース スクラップ 新聞記事から

国際ハンドボール連盟の規約によると「国際試合を行なった場合は、一試合につき最低五十フラン（四千二百円）を払いこまなくてはならない」ことになっている。ところで日本ハンドボール協会では、ローマ・オリンピック前にルーマニア・チームを招いて日本で十試合を行ったが赤字続き。そこで〝試合料〟の納入を勘弁して欲しいと国際連盟に泣きついていたが、十九日、H・バーマン会長（スイス）から「あの試合はオフィシャルなナショナルゲームにしないでおくから〝試合料〟を納入しなくてもよい」という返事がとどいた。（日刊スポーツ東京、十月二十一日付あ・ら・かると欄より）

× × ×

国際ハンドボール連盟広報第22号に、先のルーマニア対全芝工大戦（七月三日、東京小石川）の記事が載せられており、その17対16と云うスコアに対して同報は、「一九六四年の東京オリンピックの時、ヨーロッパチームに充分対抗するため、日本が行なった努力がすでに実っていることが、これでよく判る」と云う観測を下している。

協会だより

東京オリンピック強化対策の一環として日本ハンドボール協会は先にルーマニアチームを迎えて各地で試合を行い多くの収かくをえました。又一九六一年三月に行われる男子室内ハンドボール選手権大会に参加する事が決定しております。これら海外チームと対戦することは勿論大切な事であるが一方国内における選手強化対策も日本ハンドボール界に課せられた大きな問題であります。

今号では、日本ハンドボール協会の東京オリンピック選手強化対策を御紹介致します。

東京オリンピック選手強化四カ年計画（案）

昭和36年度より昭和39年度までの4カ年間を二期に分け、昭和36、37年度を前半期昭和38、39年度を後半期とし強化策を計る。前半期二ケ年を準備強化期とし、後半期2カ年を本格的強化期とする。

◇前半期2カ年の準備強化策として

a 指導者の組織を確立し、指導力の強化を計る。

b 競技人口を増やすと共に、有望選手の発掘に努める。

c トレーニングの研究並びに方法の確立を期す。

d 年間の競技日程をオリンピック大会の時期を「ヤマ」となるように編成替えをする。

e 候補選手の強化合宿練習。

◇後半期2カ年の本格的強化策として

a オリンピック大会のコーチ陣を編成して全責任を負わせる。

b 候補選手を一定の範囲にしぼり重点的指導を行なう。

c 国際試合の回数を増し、多くの試合経験を積ませる。

d 外国コーチの招聘。

一 準備強化期における指導者組織の確立

△東京オリンピック選手強化対策委員会（仮称）を設ける。

△委員は全国各都道府県より一名を推薦し全国高体連より若干名推薦する。全国学生連盟に加盟している各大学の監督が委員となる。

△委員会は本部委員会と常任委員会を設ける。

△常任委員会は各ブロックより一名の常任委員が推薦され、高体連より二名の常任委員を推薦し、大学の監督より東西二名の常任委員を推薦し、それを以って編成されたものとする。

二 指導力の強化策として

冬期トレーニングに入る前／シーズンに入る前 会議を開き次の様な問題を討議する。

①世界の競技の情勢

②トレーニングの目標とトレーニング法。

③技術の諸問題

④スポーツの栄養、医学、心理等について

⑤知識と経験の交換を行なう。

三 競技人口を増すこと有望選手の発掘について

①県内の試合を増し、人口と共に有望選手の発掘に努める。

②講習会の開催をする。（以下最下段に）

〔上段よりつづく〕

四 トレーニングの研究と方法について

①基礎体力の養成

②冬期トレーニングにしても（前期鍛錬期後期鍛錬期）等に分けて行なうとか。

③試合シーズン期とに分けての研究

④トレーニングにしてもトレーニングの方法について

五 強化合宿の日程、場所等に就いての研究をする。

編集後記に代えて

（五）月に創刊号を出す前、ともかく四回出そうと云うのが、高島理事長との約束だった。そして、軌道にのるまで共同通信社運動部の鷲尾武治さん、デイリースポーツ東京本社運動部の小川励行さん、それに僕が原稿面の責任を持つと云うことになった。どんな雑誌にどんな原稿を書いたらよいのか判らないと云うのは、ムダな日数がかさむばかりなので、こうなったとも云えるがそれより何よりこんな雑誌があると云うことを知らすのが最大の目的だった。今、第四号の与えられた紙数を色々の所から集めて来た原稿で埋め終って、これで僕らも一応の責任は全うしたわいと一服しているところである。

（お）かげ様で、悪口もあったが、おおかたは喜んでいただけ来年もどうやら続刊出来る見通しがついた。結構なことである。ただ、来年は今年より辛い。今年は一寸したミスがあっても「まだ、出たばかしだから」と大目に見ていただいたことが許されなくなるからだ。それに内容的にも徐々に変っていかねばなるまい。全三十二頁のうち二十頁はハンドボール技術（レベル）の向上に役立つもので埋めるべきだろう。そして残りをニュースや解説、記録、読物にするのが理想である。水俣の国体で荒川清美先生に「オリンピックの選手強化コーチになられたなら、大いに雑誌を利用して下さい」と云った約束も果たさねばならないだろう。

（執）筆者が片寄りすぎると云う声が大きかった。確かである。しかし、それは前述のような理由で、ともかくこうゆう雑誌があると云うことを知っていただくために、手近かな方々に御寄稿願って紙面を埋めていたからである。つまり、今までは「普及版」であったわけだ。来年からは、色々の立場から、色々の人が、色々の原稿を書いて下さるようこの場から改めてお願いしておこう。もちろん、これまで御多忙の中をさいて御寄稿願った方々も含めてである。

（と）ころで、一応僕達も四冊と云う責任冊数を出したところで表面から退陣しようと思う。諸者の皆さんと同じように僕らもハンドボールが好きだ。だから、まるっきりこの雑誌から離れるのは正直のところさびしい。編集のさいはいを協会に御返してお役に立つなら原稿だけを書きたいと思う。つまり「普及屋」の使命は終ったと云う自信と時期を感じたからである。

協会の人が、協会の立場に立って編集するのが、この雑誌の本来の行く道であり、またそうなってこそ、この雑誌はいつまでも、皆さんの支持を得つづけるのだと思う。（十一月一日）

＝筆者は杉山茂

ハンドボール　第一巻第四号　昭和三十五年十二月五日印刷　編集兼発行人　宮沢宏之　発行所　日本スポーツ新聞社　電話(251)代表一一四一～四番

定価五十円　〒八円